令和５年度事業報告

学校法人 順正学園
Junsei Educational Institution

建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

目　　次

１．法　　人　　全　　体・・・１

２．吉　備　国　際　大　学・・・１６

３．九　州　保　健　福　祉　大　学・・・４１

４．九州保健福祉大学総合医療専門学校・・・５０

法　人　全　体

Ⅰ．令和５年度　学園の運営方針

本学園は、建学の理念をすべての柱として、順正学園でしかできない特色ある教育を実現するため、以下のとおり学園運営を行う。

（１）建学の理念の達成

今年度も「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念を実現するため、学生一人ひとりにあった、きめ細かい指導により国家試験合格率を高め、専門知識と豊かな心を持った人材を社会に輩出できるよう努める。

また、スチューデントサポートセンター、キャリアサポートセンター及びラーニングサポートセンターなどが連携して、エンロールメント・マネジメントによる支援体制を充実させ、退学者を出さない積極的な支援を行う。

特に、一昨年から取り組んでいる学修成果の可視化、学修者本位の教育への転換をさらに推進する。そのため、吉備国際大学では岡山キャンパス及び南あわじ志知キャンパスのネットワーク環境整備を行う。九州保健福祉大学では令和６年度に開学２５周年をむかえることから１号棟を学生の憩いの場として改修し学修支援の充実を図る。

（２）学生確保の強化と１８歳人口の減少を見据えた多様な学生の受け入れ

学生募集に関しては、吉備国際大学及び九州保健福祉大学ではブランディング計画に基づいた広報活動を展開し学生募集を強化する。吉備国際大学では令和５年度入学生から高梁キャンパスの学生を対象とした高梁市・順正学園特別奨学金制度を設け、また、南あわじ志知キャンパスにおいては入学奨励金制度の対象者を全入学生に拡大しており、これらの制度により引き続き学生確保に努める。

さらに、１８歳日本人学生に捉われず外国人留学生の獲得を目指すとともに、大学院や通信教育による社会人の受け入れも引き続き積極的に行っていく。今後も、留学生交流の推進や社会人のリカレント教育など、多様な年齢層や国籍の学生を受け入れの実現を目指していく。

（３）地域連携の推進と外部資金の獲得

本学園は、地域と密接に関わりながら運営しており、地域の産業界や地方公共団体と連携して公開講座や連携事業を実施している。今後も地域を支える人材育成を行うとともに、地域社会の知の拠点として、産業界や地方公共団体と積極的に連携を図っていく。併せて、高度な研究成果や地域社会への貢献を実現するために、文部科学省等の補助金やとその他の外部資金の積極的な獲得を目指す。

（４）採算性の検証と学部学科等の再編

学生募集状況や将来性などを分析し、学部学科編成や学生定員の見直しを行う。

吉備国際大学では令和５年度に農学部海洋水産生物学科を開設し、令和６年度には保健医療福祉学部を改組して新たに人間科学部を開設する。九州保健福祉大学では令和６年度に九州医療科学大学へと名称変更するとともに、社会福祉学部スポーツ健康福祉学科を改組して新たに救急救命士の養成コースを新設する。また、それに伴い通信教育部も改組する。九州保健福祉大学総合医療専門学校においても令和６年度から九州医療科学大学専門学校へと名称変更する。

（５）法人のガバナンス強化

本学園が社会の理解と支援を得て発展し続けるために、引き続き法令遵守と自律的なガバナンス確保に努めるとともに、情報公開を積極的に行うなど経営の透明性向上に努める。

（６）財務の改善

学納金収入の減少により、経常収支は年々悪化している。今後も良好な教育環境と教育研究資金を確保していくため、また、さらなる飛躍を目指すためには経営基盤の安定が不可欠であることから、学生確保による学納金収入の増加と、人件費を含めた支出の見直しにより収支の改善を図る。

（７）学園５０周年記念事業の継続

学園５０周年記念事業としてボランティアセンターで実施している「デリシャスフードキッズクラブ」及び「ジョイフルキッズクラブ」の活動の一層の充実を図る。

（８）収益事業の強化

賃貸マンション「ラ・エスペランサ」の募集強化とサービス充実により、入居者の増加を目指す。

⇒　令和５年度は、新型コロナウイルスの５類移行により、設置校においては対面授業、学外実習、学園祭等の学校行事など、通常の活動に戻り、建学の理念の実現に向けて学園運営及び各設置校の教育研究活動に取り組んだ。また、外国人留学生の受入れや学生の海外留学など国際交流活動についても、通常どおり行うことができた。

学修者本位の教育への転換に関しては、各大学の教育イノベーション課を中心に学修成果の可視化に向けた取り組みを推進した。また、吉備国際大学では私立学校施設整備費補助金（ICT 活用推進事業）により岡山キャンパス及び南あわじ志知キャンパスのネットワーク環境整備を行った。

ブランディングに関しては、各設置校のブランディング計画に基づいて広報活動を展開した。また、学生募集にあたり、吉備国際大学の高梁市・順正学園特別奨学金制度をはじめとする奨学制度も広報して募集活動を強化した。

設置関係では、吉備国際大学農学部海洋水産生物学科を開設し、順調に教育活動をスタートすることができた。

法人運営に関しては、監事監査の充実を図るなどガバナンスの強化に努めるとともに、情報公開を積極的に行い経営の透明性の確保に努めた。財務の改善に関しては、経費削減を徹底するとともに、前述の学部学科の改組や、奨学金制度等による募集強化により収支改善の取り組みを推進した。

主な出来事としては、吉備国際大学客員教授の伊藤謙介先生からご寄付をいただき、吉備国際大学外国語学部の海外留学の支援を目的とした吉備国際大学伊藤奨学基金を設立するとともに吉備国際大学伊藤奨学金制度を制定した。

また、九州保健福祉大学 25 周年及び九州保健福祉大学総合医療専門学校 20 周年を記念して九州保健福祉大学では１号棟を改修して学生憩いの場を整備し、九州保健福祉大学総合医療専門学校においては、校舎外壁の改修工事を行った。

学園 50 周年記念事業については、デリシャスフードキッズクラブにおいて、企業、団体、個人から支援を受けて岡山県と宮崎県の生活困窮世帯へ食糧支援を実施した。今年度は特に（株）ロッテホールディングス、コカ・コーラボトラーズジャパン（株)、蜂谷工業（株)、総社市をはじめ多大な支援を頂いた。

収益事業では、賃貸マンション「ラ・エスペランサ」の入居者が増加し、26 部屋中 24 部屋の入居が決まった。

教育研究分野については、各設置校の報告に記載のとおり教育研究活動を推進した。

Ⅱ．法人の概要

１．基本情報

（令和５年５月１日現在）

主たる事業所の住所等

	住所	電話	FAX
学校法人順正学園	〒700-0022 岡山市北区岩田町 2-5	086-231-3517	086-231-3518
吉備国際大学	〒716-8508 高梁市伊賀町 8	0866-22-9454	0866-22-7560
吉備国際大学 南あわじ志知キャンパス	〒656-0484 南あわじ市志知佐礼尾 370-1	0799-42-4700	0799-42-4701
吉備国大学 岡山キャンパス	〒700-0931 岡山市北区奥田西町 5-5	086-207-2911	086-207-2912
九州保健福祉大学	〒882-8508 延岡市吉野町 1714-1	0982-23-5555	0982-23-5530
九州保健福祉大学 総合医療専門学校	〒880-0867 宮崎市瀬頭 2-1-10	0985-29-5300	0985-29-5755

設置する学校・学部・学科等

吉備国際大学　大学院　社会学研究科
保健科学研究科
心理学研究科
地域創成農学研究科
（通信制）連合国際協力研究科
（通信制）心理学研究科
（通信制）保健科学研究科
社会科学部　経営社会学科
スポーツ社会学科
保健医療福祉学部　看護学科
理学療法学科
作業療法学科
心理学部　心理学科
子ども発達教育学科
農学部　地域創成農学科
醸造学科
海洋水産生物学科
外国語学部　外国学科
アニメーション文化学部　アニメーション文化学科
通信教育部 心理学部　子ども発達教育学科
留学生別科

九州保健福祉大学　大学院　医療薬学研究科
（通信制）社会福祉学研究科
（通信制）保健科学研究科
社会福祉学部　臨床福祉学科
スポーツ健康福祉学科
保健科学部　作業療法学科
薬学部　薬学科
動物生命薬科学科
生命医科学部　生命医科学科
臨床心理学部　臨床心理学科
通信教育部　社会福祉学部　臨床福祉学科
臨床工学別科

九州保健福祉大学総合医療専門学校　医療専門課程　看護学科

２．役員の概要

理事･監事　　定数　理事９～１３名、監事２名　　（令和５年５月１日現在）

役職名	氏　　名	就任年月日	常勤　・非常勤の別
理 事 長	加 計　勇 樹	H23.5.14	常勤
専務理事	加 計　美也子	S59.6.1	常勤
理　事	河 村　顕 治	R3.4.1	常勤
理　事	兒 玉　　修	R2.4.1	常勤
理　事	中 永　洋 子	H6.6.1	非常勤（学外）
理　事	角 南　　篤	H24.6.1	非常勤（学外）
理　事	飛 島　　章	H28.6.1	非常勤（学外）
理　事	黒 住　宗 晴	H28.6.1	非常勤（学外）
理　事	川 端　英 男	R2.6.1	非常勤（学外）
理　事	大 橋　宗 志	R2.6.1	非常勤（学外）
理　事	佐 藤　兼 郎	R2.6.1	非常勤（学外）
監　事	山 﨑　貴 夫	R2.6.1	常勤（学外）
監　事	山 中　幸 平	H6.6.16	非常勤（学外）

役員賠償責任保険契約の状況
令和２年度から私大協役員賠償責任保険制度に加入しており、令和５年度においても、理事会決議により加入する。

保険種類　役員賠償責任保険
契約者　　日本私立大学協会
記名法人　学校法人順正学園
被保険者　個人被保険者　　理事・監事、評議員、管理職従業員、退任役員
　　記名法人　　学校法人順正学園
補償内容　個人被保険者に関する補償　法律上の損害賠償金、争訟費用等
　　記名法人に関する補償　　法人内調査費用、
　　第三者委員会設置・活動費用等
保険期間中総支払限度額　１億円

３．評議員の概要

評議員　　定数２７～３２名　　（令和５年５月１日現在）

氏　　名	就任年月日	氏　　名	就任年月日
加 計　勇 樹	H10.6.1	柴 田　良 一	R4.2.24
加 計　美也子	H27.6.1	清 水　光 二	H28.6.1
相 野　公 孝	R4.4.1	正 野　知 基	H29.6.1
井 勝　久 喜	H25.6.1	園 田　　徹	R2.4.1
池 本　貞 子	S62.6.1	田 尾　　瞳	H29.6.1
池 脇　信 直	H31.4.1	畝　　伊智朗	H30.4.1
後 迫　和 子	H26.6.1	河 村　顕 治	R4.12.21
大 原　秀 行	H26.1.19	内 藤　正 明	H23.6.1
川 本　さやこ	R2.4.1	中 角　祐 治	H30.5.29
倉 内　紀 子	H26.6.1	中 塚　　敬	H29.6.1
栗 田　喜 勝	H28.6.1	林 原　輝 明	R2.12.18
黒 川　昌 彦	H30.4.1	森 信　　繁	R3.6.1
佐 藤　兼 郎	R2.4.1	山 本　隆 一	H20.1.19
塩 見　優 子	H21.6.1		

４．専任教職員

（令和５年５月１日現在）

	教員数	職員数	備考
法人本部	－	７	出向者等含む
吉備国際大学	１１３	５３	
九州保健福祉大学	９０	３７	
九州保健福祉大学総合医療専門学校	１１	５	
合　　計	２１４	１０２	

Ⅲ．大学の概要

各設置校の入学者･学生数等の状況

単位（人）

	吉備国際大学							九州保健福祉大学				
	学部	通信学部	大学院博士（前期）	大学院博士（後期）	通信大学院修士	通信大学院博士	留学生別科	学部	大学院博士	通信学部	通信大学院博士（前期）	通信大学院博士（後期）
入学者	357		13		8		60	184	1	110	2	3
編入･再入学者	16							5		41	―	―
10 月入学（編入・再入学含む）	25		5				33			27	―	―
5/1 学生数	2,188	31	29	4	32	2	86	1,040	4	501	9	14
内留学生	282		13				86	19				
卒業者	408						59	232	―	128	―	―
修了者			31	2	19			―		―	6	1
退学者	48	3	3		1		2	19		24	1	
満期退学者								―	―	―		2
除籍者	13	4					3	4		21		
休学者	36		2		2			24		4	1	3
留年者	57	8		1	2			70	2	45	1	5

単位（人）

	九州保健福祉大学総合医療専門学校	合 計
入学者	60	798
編入学者	―	62
10 月入学（編入・再入学含む	―	90
5/1 学生数	204	4,144
内留学生	―	400
卒業者	50	877
修了者	―	59
退学者	26	127
満期退学者		2
除籍者	1	46
休学者	13	85
留年者	17	208

Ⅳ．各事業の概要

１．設置関係

（１）吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学・作業療法学専攻修士課程開設（令和６年４月）
（令和５年９月 26 日届出）
（令和５年 11 月 21 日受理）

（２）吉備国際大学人間科学部人間科学科開設（令和６年４月）
（令和５年４月 27 日届出）
（令和５年６月 22 日受理）

（３）吉備国際大学保健医療福祉学部から看護学部へ名称変更（令和６年４月）

（４）九州保健福祉大学から九州医療科学大学へ名称変更（令和６年４月）

（５）九州保健福祉大学大学院（通信制）保健科学研究科から九州医療科学大学大学院（通信制）保健医療学研究科へ名称変更（令和６年４月）

（６）九州保健福祉大学社会福祉学部スポーツ健康福祉学科入学定員を 40 名から 80 名に変更（令和６年４月）
（令和５年９月 26 日届出）

（７）九州医療科学大学通信教育部社会福祉学部スポーツ健康福祉学科開設予定
（令和６年４月）
（令和５年 10 月 26 日届出）

（８）九州保健福祉大学総合医療専門学校から九州医療科学大学専門学校へ名称変更
（令和６年４月）

（９）吉備国際大学、九州保健福祉大学、九州保健福祉大学総合医療専門学校における教育・研究の更なる充実を図る。

２．入試広報活動の計画

◎教育力など学園の良き財産を積極的に前に出す広報を行う。

１．Web を活用した広報強化
⇒ターゲティング広告やバナー広告、また Web 広告やダイレクトメール等を積極的に活用して情報発信した。大学独自のニューストピックス等を関係部署や各学科と連携し、SNS（インスタグラム等）で情報発信した。

２．露出度のアップ
⇒テレビＣＭやラジオ広告、Web 広告や主要駅でのデジタルサイネージ、ラッピングバス等で露出度を増やし、本学 HP の誘導、出願に繋げることができた。

３．ホームページの充実
⇒最新ニュースや各学部・学科等の情報を HP に掲載することができた。

４．オープンキャンパスの充実

⇒各設置校において、全てのオープンキャンパスを教職員の協力の下、問題なく実施することができた。

５．海外支局との連携強化

⇒海外支局、協定機関と連携し、オンライン説明会や学内見学・講義等を行い、本学園設置校の教育内容を広報した。

◎学生募集戦略

建学の理念を全面に打ち出し、各設置校の教育力の高さを強調した広報を行なう。また、学園全体で無駄のない効率的な広報を行なう。海外募集においても積極的に広報を行う。

目標

◎入試

入学者選抜において、受付・入試実施・発表・入学手続きまでの入試業務を各設置校と連携し合理化を行うと共に、ミスのないようにする。

（令和5年度秋季入学は、主に留学生の募集を中心に行った。国外・国内入試は、必要に応じてオンライン面接を行い、問題なく実施した。令和6年度春季入学は、9月に総合型選抜入試、11月以降は学校推薦型入試、外国人留学生入試、1月初旬より大学入学共通テスト、一般選抜入試を行い、問題なく全ての入試を実施した）

◎広報

各設置校のブランドビジョンを柱に情報配信を行い、通学・通信制の学部・学科・研究科の定員 充足率100％ を目指し、募集を行う。留学生募集も強化する。以下のとおり入試・広報活動を行う。

〇学部・学科等の改編に伴うＰＲ強化

（九州保健福祉大学、九州保健福祉大学総合医療専門学校が令和6年4月より九州医療科学大学、九州医療科学大学専門学校に校名変更し、九州医療科学大学は、スポーツ健康福祉学科に救急救命コース等学部学科改組、吉備国際大学は心理学部、保健医療福祉学部を看護学部看護学科、人間科学部人間科学科心理学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の改組に伴い、HPに掲示、リーフレット等を作成し高校訪問・校内ガイダンスやオープンキャンパス時にPRを行った）

〇WEB広報の強化

（「本学の認知度アップ」「新制度や学部・学科改編告知」「オープンキャンパス」等を目的として、リターゲティング広告やリスティング広告を利用して情報配信を行った）

〇高校生対象のガイダンスへの積極的な参加

（高校生対象ガイダンスの参加高校を昨年より増やしたことにより接触者数も

増加した）

○資料請求者へのDM

（時期に応じて、資料請求者へDMを発送した）

○オープンキャンパスや学内進学説明会の強化

（学生主体のオープンキャンパスを実施した。併せて、学内進学説明会も実施した）

○ホームページや大学案内等でブランドビジョンやタグライン、大学の三つのポリシーを積極的に周知

（各設置校で最新情報を掲示している。令和5年3月に閉校となった順正高等看護福祉専門学校のホームページについて、卒業生に対しての証明書発行にかかる情報発信が必要であり、新規情報発信機能を維持したものに改修した）

○SNSを積極的に活用し、ニュースや多様な動画等の配信

（各学科から選出した学生広報スタッフの協力により、公式Instagramの投稿が増え、学科ごとの最新情報を配信した）

○関連校（教育提携校・高大連携校）との連携事業の強化

（大学見学や出張講義等を実施した）

○奨学金制度等の減免措置の周知

（奨学金制度のチラシを作成し、高校訪問や校内ガイダンス、オープンキャンパス等に配布した）

３．ボランティアセンター

（１）吉備国際大学

①子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズ（DFK）クラブ】

○順正ＤＦＫクラブによる食料支援

・R6.3 月末現在、120 世帯が利用中。同時期までに、順正学園が購入した食料品（計 4048.13 ㎏、計 1,616,775 円）をはじめ、企業・団体等から寄贈された食料品（計 17602.71 ㎏、1 ㎏あたり 600 円で換算～10,561,626 円相当）等を、計延べ 1,540 世帯に対して、計 12 回、計 17709.30 ㎏を配送した。

・月 1 回第 3 木曜の配送に合わせ、第 1～2、4 週にかけて、ボランティアセンターの学生スタッフをはじめ、吉備国際大学の学生らがボランティアとして参加した。

・フードドライブは、1 回目（高梁市内）は 11/15～12/3 に実施し、218.35 ㎏を回収。2 回目（総社市内）は 2024/2/5～2/22 に実施し、1492.85 ㎏を回収。

・宮崎県内 3 市 2 町の事務連絡担当者を対象に、本事業の基本情報や利用手引き、事業の詳細等を、改めて周知する説明会をオンラインで開催した（6/29）。7 月には岡山県内の 4 市行政機関を訪問し、同様の現況説明を実施した。

・農林水産省（民間団体経由）及び民間団体から、各種助成金・補助金（計 686,306

円）を受け、賛助寄付金と合わせて合計 3,612,466 円を獲得した。また、子ども家庭庁からは食料品の現物助成（計 2,400,000 円相当）を受けた。

②災害復興支援セクション

〇有事に伴う災害ボランティア復興活動・募金活動の実施

・令和 5 年台風 7 号救援募金活動を実施した（9/6 高梁市内、9/13 岡山市内）。一般市民から寄せられた計 66,026 円を、災害義援金として被害の大きかった鳥取県と鳥取市に寄付した。

・平成 6 年能登半島地震救援募金活動を実施した（2024/1/24.1/26 高梁市内、2/9 岡山市内）。一般市民及び学内教職員らから寄せられた計 358,774 円を、高梁市社会福祉協議会を通じて、中央共同募金会に災害義援金として寄託した。

〇災害ボランティア研修会・セミナー等の参加・開催

・岡山県及び、岡山県社会福祉協議会と合同で「岡山県災害ボランティア研修会」を開催した（5/29.31）。吉備国際大学 1 年生約 330 名が参加し、「災害ボランティア入門編」の講義等を受講した。

③地域貢献セクション

〇高梁市、地元住民等からの要請に応えたボランティア活動への参加

・備中高梁町家通りのひな祭り（4/1）、「ひまわり号」津山の旅（5/28）、高梁市「わくわく子どもフェスタ 21」（6/17）、薬物乱用防止キャンペーン（6/22）、松原町民学園合同運動会（9/17）、御前神社秋季大祭（10/8）、そうじゃわくわくフェスティバル（10/22）、松山城清掃活動（11/25）、岡山県手をつなぐ育成会岡山県大会（11/26）、川上町高山市地区とんど祭り（2024/1/14）

〇学生スタッフによる地域サロンの開催

・停滞した地域の雰囲気を盛り上げる目的で、学生スタッフが地域住民や高齢者、子どもたちと一緒に交流するサロン活動。2023 年度は、地域の高齢者向けに特殊詐欺被害の防止を図ろうと、学生スタッフが独自に企画・演出・出演した寸劇を披露した（第 1 回公演～8/5、高梁市の高齢者団体対象。第 2 回公演～11/18、吉備中央町の高齢者団体対象。第 3 回公演～2024/2/25、国際ソロプチミスト高梁等対象）。

〇学生スタッフによる手作り遊び教室の開催

・高梁市栄町商店街の空き店舗を利用した「手作り遊び教室」を開催（開催日～4/1、4/22、5/20、6/17、7/15、9/16、10/21、11/25、12/2、2024/1/27、2/17）。毎月第 3 土曜日に、学生スタッフが考案した工作で、小学生以下の子どもたちに作り方を指導している。

・12/2 は、高梁市川上町の中山間地域の子どもを対象にした出張手作り遊び教室を開催した。

〇学生スタッフによる登下校時の声かけ（ももパト隊　朝のあいさつ運動）

・毎週月曜日、学生スタッフ（ももパト隊）がシャルム岡山高梁のメンバーと合同で、JR 備中高梁駅前において、小中学生の登校の見守りとあいさつ活動、清掃活

動等を実施した。

〇学生スタッフによるボランティアワークショップの開催

・学生スタッフがボランティアに関する学びを得るため、独自に企画・発案し、年数回、実施するワークショップ。2024/1/21、高梁高校、岡山理科大学の学生を交え「高梁高校×岡山理科大学×順正学園ボランティアセンター合同ワークショップ」を開催した。

〇防犯・交通安全活動等の実施

・主に高梁警察署、県警と連携し、高梁市内の防犯や青少年健全育成活動、交通安全にかかる啓発活動等に参加した【ピカピカ 1 年生見守り活動（4/11）、交通事故ゼロの日キャンペーン（5/19、9/29）、高梁地域安全・安心キャンペーン（10/15）、青少年健全育成キャンペーン（11/27）、岡山県警歳末特別警戒出発式・合同パトロール（12/1）、高梁警察署歳末特別警戒出発式（12/14）】。

・岡山県の協力を得て、闇バイト（犯罪実行者募集）防止啓発チラシ（計 37,000 枚）を作成。県内の各県民局や警察署に配布した。

④障がい学生支援セクション

〇ノートテイカー養成講座の開催

・2024/3/12、初心者向け講座を開催した。

⑤その他・活動支援

〇関係機関・団体との連携

・学生スタッフリーダーが高梁市内の高校でボランティア基礎講座を実施した（6/22 県立高梁高校、6/30 県立高梁城南高校）。

・「おかやま SDGs フェア 2023」に参加し、学生スタッフリーダーが「順正 DFK クラブ」の活動を紹介した（8/2.3）。

・岡山県学生防犯ボランティア連絡会（おにたいじ）のオンライン研修会（9/4）、総会&学生防犯ボランティアフォーラム（2024/2/27）に参加した。

・県内のボランティアセンターを有する大学等が集まり、オンラインで大学ボランティアセンター連絡会を開催した（10/20）。

・伊賀祭出店の売り上げの一部を、高梁市社会福祉協議会を通じて岡山県共同募金会に寄付した（11/24）。

・岡山理科大学科学ボランティアセンターとの合同ボランティア活動を実施した（12/17）。

・高梁市社会福祉協議会主催「令和 5 年度ボランティア研修会」に参加。職員がセンターの実践活動を報告した（2024/1/31）。

・吉備国際大学地域連携・地域貢献活動報告会に参加。学生スタッフリーダーがボランティアセンターの活動について報告した（2024/2/10）

・国際ソロプチミスト主催「岡山県内シグマソサエティ交流会」に参加。活動報告を行ったほか、県内 4 大学のボランティア団体と交流した（2024/2/25）。

〇学生スタッフ企画による順正学園ボランティアセンター研修合宿の開催

・ボランティアセンター新入スタッフ向けの夏合宿を、新見市神郷の宿泊キャンプ施設で実施した（8/10.11）。オリエンテーションやアイスブレイク、ボランティア講座、ボランティアセンターや学生スタッフの基本的な役割等について学んだほか、学期後半に実施する独自のボランティア活動なども企画した。

⑥広報・啓発

〇広報誌の発行

・新入生歓迎特別号、DFK クラブ 2022 年度の活動状況報告書を発行。

〇学生スタッフによる YouTube チャンネル（kibi ボラチャンネル）の製作・編集

・随時更新中。2024.3 月現在 40 本の動画をアップ。

〇その他ＨＰ、facebook、Instagram 等による情報発信

・いずれも随時更新中。

〇岡山県保健衛生功労者表彰の受賞

・センターとして長年、薬物乱用防止のボランティア活動に参加した功績が認められ、岡山県保健医療部長からの感謝状を受けた（10/26）。

〇学生スタッフによる伊賀祭出店、写真パネルによる活動紹介（11/4）

４．国際交流関係

A. 交流協定の締結

（中華人民共和国）蘇州絲綢中等専業学校との協定締結（４月）

（中華人民共和国）寧波建設工程学校との協定締結（４月）

~~（中華人民共和国）湖北工業大学との協定締結（時期未定）~~

（中華人民共和国）昆山第一中等専業学校との協定締結（５月）

（中華人民共和国）常熟高新園中等専業学校との協定締結（６月）

（中華人民共和国）蘇州高等職業技術学校との協定締結（６月）

（メキシコ）　　ロンドレス大学との協定締結（６月）

B. 教育交流協定校への学生派遣

１）短期自費留学（吉備国際大学外国語学部のみ）

派　遣　先	期　　間	人　数
~~ｵｰｽﾄﾗﾘｱ　ウロンゴン大学~~	~~2024 年 2 月～2023 年 3 月~~	~~1 名~~
ｵｰｽﾄﾗﾘｱ　Brown English School	2023 年 8 月～2023 年 10 月	1 名
ｵｰｽﾄﾗﾘｱ　Brown English School	2023 年 9 月～2023 年 10 月	1 名
~~カナダ　EC English School~~	~~2023 年 7 月～2023 年 9 月~~	~~1 名~~
マルタ　EC English School	2023 年 8 月～2023 年 10 月	1 名
米国　UC サンマルコス	2023 年 8 月～2023 年 10 月	1 名
F+U Academy of Languages	2023 年 8 月～2023 年 10 月	1 名

米国　　EC English School	2024 年 2 月～2024 年 3 月	1 名

2）短期交換留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

大　学　名	期　　間	人数
米国　　フィンドリー大学	2023 年 8 月～2023 年 12 月	2 名
フランス　EMBA Business School	2023 年 8 月～2023 年 12 月	2 名
カナダ　　オカナガンカレッジ	2023 年 8 月～2023 年 12 月	2 名
カナダ　　オカナガンカレッジ	2024 年 1 月～2024 年 4 月	1 名
韓国　　釜山外国語大学	2023 年 8 月～2023 年 12 月	2 名
~~韓国　　釜山外国語大学~~	~~2024 年 2 月～2024 年 6 月~~	~~1 名~~

C. 教育交流協定校からの学生受入れ

1）短期留学（吉備国際大学外国語学部のみ）

大　学　名	期　　間	人数
オランダ　ハーグ応用科学大学	2023 年 4 月～2024 年 9 月	1 名
オランダ　ハーグ応用科学大学	2023 年 10 月～2024 年 3 月	1 名
米国　ニュージャージーシティ大学	2023 年 4 月～2023 年 9 月	1 名
フランス　EMBA	2023 年 4 月～2023 年 9 月	1 名
韓国　　釜山外国語大学校	2023 年 4 月～2023 年 9 月	2 名
韓国　　釜山外国語大学校	2023 年 4 月～2024 年 3 月	1 名
韓国　　釜山外国語大学校	2023 年 10 月～2024 年 3 月	1 名
台湾　　致理科技大学	2023 年 10 月～2024 年 3 月	5 名

2）短期研修（吉備国際大学のみ）

大　学　名	期　　間	人数
米国　フィンドレー大学	2023 年 6 月 18 日～6 月 26 日	11 名
カナダ　オカナガンカレッジ	2023 年 6 月 18 日～7 月 3 日	6 名

3）オンライン留学（吉備国際大学外国語学部のみ）

大　学　名	期　　間	人数
EC English School	2023 年 8 月～9 月	7 名
F+U Academy of Languages	2023 年 8 月~~～9 月~~	4 名
F+U Academy of Languages	2023 年 9 月	2 名
F+U Academy of Languages	2024 年 2 月～3 月	4 名

５．施設設備関係　（500 万円以上の事業（修繕工事を含む））

（１）吉備国際大学

・岡山キャンパス　ネットワーク整備事業　17,860 千円（実施済）
（文科省ＩＣＴ活用推進事業：補助率 1/2 以内、補助希望額：7,921 千円）

・南あわじ志知キャンパス　ネットワーク整備事業　18,870 千円（実施済
（文科省ＩＣＴ活用推進事業：補助率 1/2 以内、補助希望額：8,426 千円）

・南あわじ志知キャンパス　情報処理室リプレイス　5,665 千円（実施済）
（文科省教育基盤設備：補助率 1/2 以内　補助額：2,742 千円）

・海洋水産生物学科　機器備品（オートアナライザーを含む）　51,569 千円（実施済）

・海洋水産生物学科　臨海実習施設整備　160,000 千円（実施済）

・農学部海洋水産生物学科　建物耐震診断及び補強計画立案業務　6,996 千円（実施済）

・海洋水産生物学科　臨海実習施設　機器備品　20,523 千円（実施済）

・高梁キャンパス　楢井サッカー場　人工芝張替更新工事　72,600 千円（実施済）

・高梁キャンパス　第 2 体育館北面修繕工事　6,350 千円（実施済）

（２）九州保健福祉大学

・「Ｙショップ」設置経費　10,255 千円（実施済）

・オールインワン蛍光顕微鏡イメージングサイトメーター　20,130 千円（実施済）
（文科省研究設備：補助率 2/3 以内、補助額：13,420 千円）

・１号棟改修工事　129,019 千円（実施済）

・救急救命コース開設経費（９号棟改修工事を含む）　46,349 千円（実施済）

・大学会館外壁改修工事　7,216 千円（実施済）

・大学名称変更経費　7,202 千円（実施済）

（３）九州保健福祉大学総合医療専門学校

・校舎改修工事　185,900 千円（実施済）

（４）学園共通

・勤怠管理システムリプレイス　5,720 千円（実施済）

６．その他

・FC 吉備国際大学 Charme へのスポンサー料（吉備国際大学）　6,000 千円（実施済）

吉備国際大学

Ⅰ．建学の理念・教育目標の具現化について

１．大学の使命・目的及び教育目標の周知徹底

吉備国際大学は、開学以来「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念のもと、地域密着型総合大学として、地域に根差した人材の育成に取り組んできた。また、国際化時代を予見し、開学当初から留学生を積極的に受け入れるとともに海外の大学と教育交流協定を締結し、教育・文化交流を図ることにより、学生に国際性を備えた豊かな人間性を身につけさせることに努めてきた。本学の教育の特色と強みはこれからも「地域連携・地域貢献」と「国際化」にある。

開学30周年を迎えた2020年に、建学の理念をより具体的に実現するべく、吉備国際大学ブランドビジョン「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。」を新たに策定した。このブランドビジョンにより、本学が育成する能力を具体的な三つの力で表し、各学科においてそれぞれをディプロマ・ポリシーに明確に定めて教育を行っている。本学はこのブランドビジョンを教育目標と定めて全教職員が共有し、それを具現化する質の高い教育を展開して、学生の三つの力を引き伸ばす。

〈今年度の取り組み状況〉

令和5（2023）年度から始まった第三期中期目標・中期計画の初年度となった。

【教職員に対する周知】

１．ガルーントップページのバナー、ネームホルダー、名刺など至る所にブランドビジョンを表示して全教職員で教育目標を共有した。

２．令和5年4月15日に自己点検・自己評価会議を実施して前年度の自己点検・自己評価を行い、その結果を受けて今年度の目標・計画の作成を行った。

【ステークホルダーに対する周知】

１．学外に対しては、学生便覧や大学案内、ホームページ等のメディアの内容を充実させて周知した。

２．オープンキャンパスや保護者会、入学前説明会、入学宣誓式、学位記授与式等の機会において説明を実施した。

〈次年度へ向けて〉

建学の理念に基づくブランドビジョンを教育目標と定めて全教職員が共有し、それを具現化する質の高い教育を展開して、学生の三つの力を引き伸ばす。

教職員に対する周知としては、ガルーントップページのバナー、ネームホルダー、名刺など至る所にブランドビジョンを表示して全教職員で教育目標を共有する。また、教育目標に基づき4月に自己点検・自己評価会議を実施して令和5（2023）年度の自己点検・自己評価を行うとともに、令和6（2024）年度の目標・計画の作成を行う。

ステークホルダーに対する周知としては、学外に対して学生便覧や大学案内、ホームページ等のメディアの内容を充実させて周知する。またオープンキャンパスや保護者会、入学前説明会、入学宣誓式、学位記授与式等の機会において説明を実施する。

Ⅱ．学生確保について

１．ブランディングの強化

〈今年度の取り組み状況〉

学長を委員長とした「ブランディング実行委員会」を設置して、委員は各学科及び各部署の若手・中堅層を中心とし、職位を問わず優れた意見を改革に反映できる体制でブランディングを推進している。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

１．ブランドビジョン＝教育目標であり、それを具現化する本学の教育の特色が「地域連携・地域貢献」と「国際化」にあることを、あらゆる機会を通じて周知する。
　学内外のイベントでの挨拶やインタビュー等の機会に、学長をはじめ各担当者が本学のブランドビジョン（教育目標）と、その目標を達成するための２つの柱が「地域連携・地域貢献」と「国際化」であることを発信している。

２．インスタグラムなどのSNSを通して各学科の魅力を発信する。
各学科の学生スタッフが、SNSに所属学科の様子がよくわかる写真や動画を掲載し、魅力を発信している。また、全学的な行事等についても都度SNSに掲載し大学の特色を発信している。

３．ホームページは常に最新の内容に更新して、特に本学の教育の特徴である「地域連携・地域貢献」と「国際化」について積極的に発信する。
　地域と連携した行事や研究の状況、国際交流の行事や留学の状況については、都度ホームページに掲載し広く発信している。

〈次年度への課題〉

　学長を委員長とした「ブランディング実行委員会」を継続して、三つの活動を強化する。委員は各学科及び各部署の若手・中堅層を中心とし、職位を問わず優れた意見を改革に反映できる体制でブランディングを推進する。また、学生参画を推進するために、ブランディング実行委員会に学生の参加を求めていく。

２．入学者受入れ方針（ＡＰ）の明確化

〈今年度の取り組み状況〉

１．一般選抜前期A方式の中で学力の3要素を多面的・総合的に評価を行う選考方法を導入し、全学部・学科対象に実施した。
２．一般選抜前期C方式の中で、全学部・学科を対象に国際化に向けた入学者選抜として資格・検定試験を活用し、英語4技能を評価する選抜を行った。
３．2025年度入学者選抜に向けて、新学習指導要領に対応した選抜方法を検討した。
４．入試代議員教授会で、入試制度の妥当性を検証した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

１．一般選抜前期A-Ⅱ方式入試を新たに導入し、10名の志願者があった。2科目選択の学力試験、小論文、高等学校評定値点数化による選考方法で、学力の3要素を総合的・多面的に評価を行った。
２．一般選抜前期C-Ⅱ方式を新たに導入し、10名の志願者があった。1科目選択の学力試験、英語学部検定試験の点数化による選考方法で、英語の4技能の評価を行った。
３．2025年度入試に向けて、他大学との動向をみて各科目等の出題科目・出題範囲を検討し、入試代議員教授会で決定後、次年度5月以降に公表することとした。
４．入試代議員教授会で、2020年度生のGPAに基づき入試検証を行い、妥当であると判断した。その後、内部質保証委員から改善指示があり、再度入試代議員教授会で入試制度の妥当性について検討した。

〈次年度への課題〉

１．一般選抜前期A-Ⅱ方式入試について、ここ何年かは一般選抜入試の改善を行わなかったが、2024年度入試で一般選抜の総合評価型入試を実施することができたので、2025年度入試も引き続き実施していく。
２．一般選抜C-Ⅱ方式入試について、英語4技能を判定する為に英語外部検定試験を点数化し実施することができたので、2025年度も引き続き実施していく。また、専願入試に外部英語検定試験を導入することも検討していきたい。
３．2025年度入試に向けて出題科目が大きく変更することはないが、新学習指導要領に基づき、各科目の出題範囲をチェックし、入試問題の準備をしていく。
４．入試制度の妥当性について、2020年度入試以前の入学者選抜は、入試改革前の選考方法で実施している。2021年度以降の入試より入学者選抜の見直しと変更を行っており、また更なる入試制度の改善をしている段階である。2025年度に向けては、AO総合選抜や専願入試の面接について、本学のアドミッションポリシーの理解度を確認事項に追加する。

３．収容定員の充足

【収容定員充足に向けた募集活動】

〈今年度の取り組み状況〉

１．ブランドビジョンを柱に各学部・学科の情報発信を行い、入学定員充足を目指した。
２．オープンキャンパス参加者数を増やし、専願入試（AO総合選抜・指定校・特別推薦）の入学者を昨年以上に増やすために、高校訪問、進学ガイダンスや出張講義、高校単位での見学会などを行い、特に4月～8月までの広報を強化した。
３．オープンキャンパスへの参加や出願促進を目的として、Web広告やダイレクトメール等を積極的に活用し、受験生等をホームページへ誘導する試みをした。
４．本学のホームページやインスタグラムでの情報発信を充実した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

１．ホームページの内容を充実させるために、各学部・学科での学びを中心に情報発信を行った。学部・学科からの情報提供を受け、「キビコクNEWS」としてトップページから誘導できるように工夫した。
２．高校生対象の高校内ガイダンスの会場型ガイダンスに積極的に参加したことで昨年度より接触者数も増えて、オープンキャンパス参加者数も大幅に増加した。（カッコ内は昨年度）
高校内ガイダンス【入試広報室】65校（62校）、高校内ガイダンス・出張講義【教員】79校(69校)、会場型ガイダンス【入試広報室】30会場（36会場）接触者数（参加者数）1,891名(1,495名)
オープンキャンパスを全8回実施し、参加者数（カッコ内は昨年度）は、受験生・高校生1,068名（849名）と増加した。
３．本学の認知度アップ、オープンキャンパス告知、特別奨学金制度・新設学科告知など目的としてWeb広告やダイレクトメール等を積極的に活用し、本学ホームページ等へ誘導して、オープンキャンパスへの参加につなげた。
４．各学科の学生広報スタッフにより、インスタグラムへの情報発信が積極的に行えた。大学生の生活（イベント参加、学外活動）の視点から最新の学科情報を速やかに発信できた。

〈次年度への課題〉

１．2025年度募集に向けて、昨年度と同様にホームページの内容を充実させ、各学部・学科等の新着情報を発信していく。
２．2025年度学生確保について、オープンキャンパスの参加者数を増やして、年内入試で確保するために、引き続き高校訪問、進学ガイダンスや出張講義などを行い、更なる広報強化を行う。
３．Web広告やダイレクトメール等を積極的に活用し、オープンキャンパスへの参加、受験に結びつける。
４．来年度も、ホームページやインスタグラムを利用して最新の情報発信を行い、入学者確保につなげていく。

【改組等による適切な学科編成】

〈今年度の取り組み状況〉

心理学部心理学科、保健医療福祉学部理学療法学科及び作業療法学科を改組して令和6年度に開設する人間科学部の周知を今年度当初よりホームページ内にバナーを設け、オープンキャンパス及び高校訪問でPRするためにリーフレットも作成して周知を図る。また、看護学科は学部名称を「看護学部」に変更を行うことで「看護師」養成を行っている大学を改めて周知する。

「高梁市特別奨学金制度」、「南あわじ市入学金制度」周知浸透を引き続き進める。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

心理学部心理学科、保健医療福祉学部理学療法学科及び作業療法学科を改組して令和6年度に開設する人間科学部の周知を今年度当初よりホームページ内に専用のバナーを設け、オープンキャンパス及び高校訪問でPRするためにリーフレットも作成して周知を図った。

また、看護学科は学部名称を「看護学部」に変更を行うことで「看護師」養成を行っている大学であることを周知した。さらに「高梁市特別奨学金制度」、「南あわじ市入学奨励金制度」の周知浸透も行った。

〈次年度への課題〉

人間科学部人間科学科について、心理学、理学療法学、作業療法学の分野を学ぶことができるということを、ホームページやオープンキャンパス、高校訪問などで引き続き周知していく。

看護学部についても、引き続き「看護師」養成を行っている大学であることをＰＲしていく。さらに、「高梁市特別奨学金制度」、「南あわじ市入学奨励金制度」、「外国語学部給付型奨学金制度」の周知をしていく。

Ⅲ．教育の充実について

１．教育改善・向上

ブランドビジョン実現のための教育課程の見直しと充実

〈今年度の取り組み状況〉

(1) 本学の特色である“地域”と“国際”を軸とした全学的な教育プログラムの策定

まず準備段階として、全学教養教育委員会において2022年度スタートの教養科目の授業内容と履修状況の検証を行った。また各種学生・卒業生等のアンケート結果をもとに来年度以降、必修の「人間力育成科目」を起点とした課題解決型のプログラムの創設を目指す。

(2) 情報教育の推進と語学教育の充実

情報教育については、2022年度入学生より導入したBYOD（パソコン必携化）の実態調査を行い、学科ごとの授業でのパソコンの活用状況を取りまとめ、内部質保証委員会に報告した。

また「AI戦略2019の育成目標」で、すべての大学生が必要とされるリテラシーレベルのデータ活用能力を身につけることを目標に、2022年度から教養科目で導入した「数理・データ活用科目」2科目、英語力向上を目指し同じく教養科目に導入したネイティブ。スピーカーによる英語科目の「レベルアップ英語Ⅰ・Ⅱ」等の履修状況を検証した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

卒業時アンケートや就職先アンケート等の結果から、問題解決力、行動力、ICT活用・語学・プレゼンテーション能力に関する学生の自己評価が低く、反面、卒業生や就職先からはこれらの能力が社会で必要であると回答されていることが分かった。この結果報告を受け、内部質保証委員会より、本学のDP7の「自己効力感」の育成及びICTの活用・語学・プレゼンテーション能力の育成に有効な方策を具体的に提案するよう改善指示が出され、3月には各学科、委員会で検討した改善計画が内部質保証委員会に提出されている。

また、新たな教養科目の履修状況については、「数理・データ活用科目」では、大学全体の履修者が、「数理・データサイエンス・AI基礎」が20名、「数理・データサイエンス・AI応用」が15名と非常に少なかったことから、秋学期の在学生オリエンテーションにおいて科目の必要性を説明したチラシを作成して配付し、受講を推奨したことにより、今年度秋学期の「数理・データサイエンス・AI基礎」の履修者が大学全体で92名と大幅に増加した。語学教育については、今年度初めて開講したネイティブスピーカーによる英語科目の「レベルアップ英語Ⅰ・Ⅱ」の履修者は、高梁・南あわじ志知キャンパスの合計で、「レベルアップ英語Ⅰ」22名、「レベルアップ英語Ⅱ」15名で、学科の偏りも見受けられた。オリエンテーションを通じて、科目の目的などを学生に周知し、特に海外留学を目指す学生などが積極的に受講するよう働きかける必要がある。（数理・データサイエンス・AIについては別紙参照のこと）

〈次年度への課題〉

“地域”と“国際”を軸とした全学的な教育プログラムの策定を全学教養教育科目を中心に検討を進めていく。特に“地域”については、高梁市や南あわじ市との連携を含め、課題解決型（PBL）の授業を取り入れ、今年度検討した本学のDPにある「自己効力感」を高めることができる内容を検討する。また、これからの社会に必要とされる情報教育と語学教育については、今後も教育内容の充実と履修者増の取組みを実施するとともに、情報教育においては、BYODを推し、2024年5月には、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に計画どおり申請する計画である。

学修支援の強化

〈今年度の取り組み状況〉

(1) 学修時間の延伸に向けた方策の検討

本学では入学時から卒業後まで各種学生アンケートを実施している。本学の学生の学修時間については、入学時アンケートから高校段階から学習時間が少なく、学習習慣が身についていないことが明らかになった。また今年度秋に実施した「学生の学修及び生活に関するアンケート」によれば、1週間の授業以外の学修時間は、「ほとんどしない」が27.7%、「１～5時間」が48.8%で、全国平均を大きく下回っていることが分かった。

この結果を受け、内部質保証委員会から、その他の生活時間との関係性などアンケート結果を分析し、初年次から学修習慣を身につけるための方策を検討するよう指示が出され、内部質保証委員会において今年度中に取りまとめ、改善を実施する計画である。

(2) 国家試験対策の根本的な見直し

令和４年度の自己点検・自己評価結果を受け、国家資格の取得を目的としている保健医療福祉学部看護学科、理学療法学科、作業療法学科について、内部質保証委員会より国家試験対策の根本的な見直しの改善指示を行い、8月開催の内部質保証委員会において各学科長より改善計画が報告された。改善にあたっては、3学科での情報共有や協働体制のもと、１年次から４年次までの体系的な対策が提案され、これに基づき学生指導が行われた。

(3) 外国人留学生の学修支援

外国人留学生を対象とした「KIUグローカル人材養成留学生就職促進プログラム」を新たに構築し、文部科学省「留学生就職促進教育プログラム認定制度」に申請し、10月末に認定された。この認定制度は、外国人留学生に対する敬語やビジネスマナーを含む「日本語教育」、「キャリア教育」、「インターンシップ」を一体として提供する質の高い教育プログラムを文部科学省が認定し外国人留学生の国内企業等への就職を一層促進するもので、プログラムを修了した学生には修了証明書が発行され就職活動に活用することができる。また日本語能力が十分でない留学生のための補習授業として、ラーニングサポートセンターが実施する日本語能力試験対策講座を、週2コマ開講するなど、トップアップとボトムアップの両面から支援し、留学生全体のレベルアップを図った。

(4) 退学者対策の実施

精神的に問題を抱える学生の状況を早期に把握し、支援策を講じることを目的に、例年通り新入生面談ウィークとして、オリエンテーション時に実施した心理テストの結果なども活用して、入学時に個人面談を全学で実施した。また、 2 週連続授業欠席データを活用しての早期対応も継続して実施しているが、10月からは、毎月、各学科の欠席者の状況を取りまとめ、学長、副学長、学部長及び担当部局に報告し、情報共有を図る取組みを新たに実施している。

増加傾向にある留学生の退学・除籍について、留学生別科、学部の各入学試験において個人面接を実施し、大学入学の目的や意思確認を必ず実施することとした。また、コロナ禍でここ数年十分にできなかった留学生別科の学生と各学科との交流イベントの実施やキャンパス行事への参加など、留学生別科の学生の大学入学への意欲を醸成する取り組みを積極的に行った。

学力不足による学修意欲の低下を防ぐため、入学前教育及び入学後の基礎学力向上のツールとして導入しているkiuiドリルについて、学生の実施状況データからその妥当性について各学科の意見を取りまとめ、内部質保証委員会に報告した。2025年度入学生の入学前教育実施に向けて継続して担当委員会で検討、審議し、来年度5月末までに改善案を提出する予定である。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

(1) 学修時間延伸の方策は各種アンケートもとに計画的に進められている。

(2) 国家試験の結果（合格率）

看護師：	87.9%（全国平均93.2%）	保健師：	100%（全国平均97.7%）
理学療法士：	100%（全国平均95.2%）	作業療法士：	100%（全国平均91.3%）

作業療法士は2年連続100%、理学療法士は昨年の69.6%から100%と大幅に向上した。

さらに保健師についても100%、看護師は87.9%と全国平均を下回ったが、国家試験対策の全面的な見直しによる成果がみられた。

(3) 外国人留学生を対象とした文部科学省「留学生就職促進教育プログラム認定制度」については、全国でも国公立大学を含め現在までに20数校、岡山県内の大学では初めての認定である。日本国内での就職を希望する優秀な留学生の就職支援として活用が期待される。

(4) 退学者数・除籍者数等(通学制学部・大学院の合計)】※R5年度は3月19日時点(受理分)

	退学者数	除籍者数	合　計	退学率	除籍率	退学・除籍率
令和4年度	81	20	101	5.1%	1.2%	6.3%
令和5年度	43	9	52	2.8%	0.6%	3.4%

3月19日時点であるため、今後、退学者及び学納金未納の除籍者の追加が見込まれるものの、昨年度に比べ大幅に減少した。特に留学生の退学・除籍者が53名から17名に減少しており、対策による一定の効果を得た。ただし、入学時より問題を抱えた学生が増加傾向にあるため、1年次の早い段階で授業を欠席したり、休学や退学となるケースが増えている。

〈次年度への課題〉

外国人留学生の学修支援として新たに構築した「KIUグローカル人材養成留学生就職促進プログラム」を大学ホームページやオリエンテーションなどを通じて学内外に情報発信し、留学生の日本国内への就職活動支援や留学生募集などに役立てていく。

退学者対策については、入学段階及び入学後の対人・学修などに関する不安など、各段階で精神的に問題を抱える学生への有効な支援方法を検討する必要がある。

学修成果の可視化の推進と教育改善

〈今年度の取り組み状況〉

(1) アセスメントプランに基づく三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価と改善

アセスメントプランに基づく令和5年度アセスメント実施計画を策定し、計画どおり実施した。これまでに、入学時アンケート、卒業時アンケート、卒業生及び就職先アンケート、学生の学修及び生活に関するアンケート、学生による授業評価アンケートの各種アンケートの実施及び検証結果報告、また各種資格取得率、修業年限内卒業率、退学理由分析、成績分布等の各種IRデータの集計報告、さらに今年度から新たにジェネリックスキル測定テスト（PROGテスト）を実施し、客観的評価による学修成果の可視化を可能とした。

(2) ジェネリックスキル測定テスト（PROGテスト）を新たに導入

学生のジェネリックスキルを客観的に測定することができる「PROGテスト」を１年生及び４年生を対象に新たに実施した。学生へのフィードバックは、1年生は「キャリアデザインⅠ」の授業内で個人結果を返却して解説会を実施し、4年生はゼミ単位でフィードバックした。また大学全体の集計結果については、内部質保証委員会に報告するとともに、FD研修会として全教職員を対象に解説会を実施し、本学学生の強み・弱みなど分析結果を共有した。

(3) 学修ポートフォリオとルーブリック評価の実施

昨年度、１年生から実施している学修ポートフォリオは、今年度は２年生までを対象に実施した。昨年度、演習及び卒業論文（研究）科目で導入したルーブリック評価については、評価項目等について見直しを実施し、今年度末には、試験的に一部の学科において、卒業論文のルーブリック評価をデータ集計し、ＤＰとの紐づけによる学修の達成度について検証する計画である。

(4) 教育改善の取組みへの学生の参画

卒業する学生にカリキュラムについて意見を聴取して改善に取り組む「カリキュラム・コンサルタント」について、実施案を策定し、教育開発・研究推進中核センター会議に提案した。来年度より一部の学科で試験的に実施する計画である。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

アセスメントプランは、毎年、実施時期や点検内容、アンケート実施方法等について見直しを行った上で、計画通り実施できている。特に、新たに導入した客観テストである「PROGテスト」については、これまで学生アンケート等の自己評価が中心であった学生の能力に関する評価について、客観的なテストにより測れるようになったことで、学修成果の可視化としてより正確に検証できるようになったと考える。

〈次年度への課題〉

「PROGテスト」のデータを活用し、DPの達成度、各種アンケート結果との相関性など、データの分析と検証を行い、教育改善の基礎データとする。将来的には1年次と4年次のテスト結果を比較し、能力の伸長を確認して学修成果の可視化を進める。また学生へのフィードバックを丁寧に行い、学生が自らの能力を確認し、大学生活や将来の目標設定、就職活動に役立てられるようにする。

学修ポートフォリオについては、継続して実施し、就職活動に結びつけられるようキャリア教育との連携を検討している。

２．学生支援の充実

学生の意見・要望への対応の強化

〈今年度の取り組み状況〉

例年各キャンパスの学友会と理事長、学長との意見交換会を行い、施設設備、学生サービスに関して可能な件についての対応を行っている。令和５年度については、意見交換会と共にユニバーサルパスポートのアンケート機能を活用し各キャンパスにおける学生から本学に対する意見・要望を幅広く集め対応している。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

理事長、学長と各キャンパスの学友会執行委員との意見交換会は令和6年1月23日に開催した。その祭、前年度の意見交換会において学生から要望があった本学の設備等の改善点についてのフィードバックを行った。アンケート調査については、IR推進委員会が実施するアンケートと質問項目を整理・統合し実施した。その後、内部質保証委員会から指摘があった改善項目について学生満足度向上委員会において精査し令和6年度に向けての改善案を作成した。

〈次年度への課題〉

集計結果の正確性を向上させていくために質問内容の精査が必要である。（学生が保護者から受け取る仕送に関する質問での自宅生の扱いやアルバイトと課外活動の関係が可視化できる内容など）

また、新入生、卒業生に対するアンケートの集計データと共に健康管理センター等、各部門が保存する学生支援の記録との連携もさらに行う事が必要である。

学生の相談体制の見直しと充実

〈今年度の取り組み状況〉

キャリアサポートセンター、教務部などの学生支援部署との連携を通じた学生支援体制の再構築を図っている。特に留学生に対しては、入学時のオリエンテーションからアルバイトなどの生活相談、成績に関する情報など共有しているデータを活用し入学から卒業までの流れを意識した支援に取り組んでいる。留学生の窓口対応においてアルバイトを希望する学生にエントリー方法を指導すると共に、高梁市内の企業と就業希望者（アルバイトを含む）を対象とした説明会に学生課職員が参加し情報収集を行った。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

学生課、留学生課、保健室の窓口やメールによる相談に適切に連携し対応できた。合理的配慮を必要とする学生への支援については、担当教員、健康管理センター、教務部などの関係部署と連携を図り個別支援を行うなど一定の成果を上げていると言える。留学生への窓口対応についても入学直後のオリエンテーションにおいて学生生活を送るために必要なルール説明と共にアルバイトの斡旋についての内容を盛り込んだ。このことにより学生課へ来室した何名かの留学生に斡旋することができ就業が実現した。

〈次年度への課題〉

学生が気軽に相談できるように、学生部窓口や保健室での対応を今まで通り丁寧に行うとともに、メールなどで相談できる相談員制度を含む相談方法に関する広報を強化する。

留学生の中で日本語能力の低い学生に対して、卒業までに必要となる単位取得に関する知識、学外で日常生活を送るために必要な日常的ルール、求められるモラルについての理解を如何に伝えるかが留学生支援の大きな課題となっている。学内外でトラブルを起こしてしまう留学生は日本語能力が低く日常生活を送るうえでのルールを理解していないケースが多い。これを改善するためオリエンテーション、窓口対応について翻訳ソフトなどのツールを活用して意思疎通を図り、支援対象となる留学生の来室者を増加させていく。

課外活動の活性化（クラブ活動）

〈今年度の取り組み状況〉

クラブ活動全般の活動や学園祭などの行事はコロナ禍以前とほぼ同等のレベルにまで回復してきた。令和5年度は、学友会、学園祭実行員会のスタッフの増員、体育部会・文化部会など各組織全体の立て直しに取り組むことができている。その過程で継承されてこなかったデータ化されていない慣例などについての指導を行うことで組織の活性化を図っている。高梁キャンパス、岡山キャンパス、南あわじ志知キャンパスの学生レベルでの交流も見られた。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

年度当初より学友会並びに伊賀祭実行委員の学生と打ち合わせを重ね、新入生に対する両委員の広報・勧誘活動を実施し前年度より執行委員、実行委員のメンバーを増加させることができ、クラブ部員数も増加することができた。また、新入生への対応、学友会が開催するスポーツ大会などのイベント開催前に昨年度までのトラブル事例について学生部より説明・指導を行いイベントの精度を向上させることができた。さらに、伊賀祭開催についても行政へ提出する必要がある各種手続書類作成を（備北保健所・高梁市役所・高梁消防署）学生自身が作成し提出を行うことができた。

〈次年度への課題〉

クラブ活動については、文科系のサークルが新規発足し、体育会系のクラブについてもコロナ禍以前の活動水準に戻ったと言える。学友会、学園祭については委員長が主導し自立した活動が出来る組織が構築されつつある。一方で体育部会、文化部会の組織再編については、未達成の点が多く令和6年度に対応しなければならない課題となっている。休部になる場合や新規に立ち上げるクラブ活動に対する支援も手厚くする必要がある。顧問の連携についても対応したい。

課外活動の活性化（地域社会との連携）

〈今年度の取り組み状況〉

高梁キャンパスにおいては本学学生と地域社会の各種団体との交流をコロナ禍以前の規模に再開し新規に伊賀祭へ招聘するなどの連携強化に取り組んでいる。新年会でも有意義な交流が見られた。また、南あわじ志知キャンパスについては、従来から続いている地域社会との連携を継続すると共に新学科開設に伴い新規の連携事業を展開している。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

昨年度より開催している留学生を主体としたインターナショナルフェスタに高梁市内の小中学生を招き本学在学生との交流を行うことができた。さらに、学友会・伊賀祭実行委員会の要請に地元ボランティア団体が応え伊賀祭などの行事に出店するなど市民と学生の交流がコロナ禍以前に回復した。南あわじ志知キャンパスについては、海洋水産生物学科の教員と学生が海岸のクリーンアップ行事に参加するなど地域社会への貢献活動が開始された。

〈次年度への課題〉

地域との交流は増えてきているので、学生の代表の意見を重視していきたい。留学生を主体としたインターナショナルフェスタについては、令和6年度は開催時期を見直し12月の開催とし学友会のクリスマス行事との合同開催となった。開催規模は未定であるが、学生の自主性を大切にすることと行事の継続性についてどの様に擦り合わせていくかが課題と言える。

キャンパス間交流の充実

〈今年度の取り組み状況〉

令和4年度に続き、各キャンパスにおいて実施している学園祭への相互出展とキャンパスが立地する地域のＰＲに取り組む。また、各キャンパスにおいて実施している他の行事、インターナショナルフェスタ、ハロウィン、クリスマスなどの行事についても可能な限りの交流を行う。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

伊賀祭では、南あわじ志知Ｃの並びに岡山Ｃの在学生が参加、出店、くにうみ祭においては高梁Ｃ並びに岡山Ｃの学生が模擬店を出店した。さらに、高梁市栄町商店街において開催されたカレーフェスタに３キャンパスの学生が合同で出店を行った。内容は、南あわじ志知Ｃで栽培した野菜を使用し岡山Ｃの学生オリジナルのベジタブルカレーを調理し合同で販売を行い、高梁Ｃの学生は留学生と共に民族衣装での記念撮影、各国の民族舞踊などの披露を行った。

〈次年度への課題〉

南あわじ志知キャンパスのさなぶり祭への岡山キャンパス並びに高梁キャンパスからの参加、学園祭への各キャンパスの相互出店については、週末の大学行事であることから学生の参加が比較的に多いが、平日（授業日）に開催される行事へ他のキャンパスから参加するにはスケジュールの調整が課題となる。また、学外で開催される地域行事への合同参加については、毎年変化する学生のニーズと地域からの要望について行事参加の継続性が課題となる。

３．キャリア支援の強化

キャリア教育の充実

〈今年度の取り組み状況〉

学生の主体的・積極的なキャリア形成を支援してくため、1年次から3年次までのキャリア教育において以下の方策を重点的に行った。

1. 「キャリアとは何か」「大学で何を習得していくのか」を考え主体的に実行できるよう、情報提供や実践的なキャリア教育を行う。
2. 社会的及び職業的自立に必要な能力である基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、キャリア・デザイン能力）を高める演習やグループワークを行う。
3. 就職活動に必要な情報の収集、業界研究・企業研究、各種書類の作成、試験や面接に関する知識やスキルを教授する。
4. 学生の主体的なキャリア形成や進路選択に活用するため、「キャリアデザインノート」や「キャリアプラン」の作成を支援する。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

1. 2022年度から新カリキュラムとなり、キャリア教育の内容も一新した。1年次必修科目「キャリアデザインⅠ」の初回に「キャリアとは何か」を教授して自分の将来の生き方をイメージし、大学4年間の目標やそれを実現するための生活を考えることができるよう、講義や演習を実施した。
2. 1年次「キャリアデザインⅠ」の中で、自己理解を深める演習を繰り返し実施した。また、外部講師として、卒業生やボランティアセンター職員を招聘し、社会と繋がっていく自分をイメージし、実際に活動していくことを推し進めた。さらに、2年次「キャリアデザインⅡ」においても、自分の社会人基礎力や就職基礎力を自覚できるような演習を取り入れ、自己理解を深めることができた。
3. 就職活動に必要な情報収集をするため、3年次「キャリア開発Ⅱ」の授業内で情報サイト会社6社による登録会を実施した。業界研究・企業研究においては、県内の企業から職業教育をはじめ働き方や仕事に対するの考え方を学ぶ時間を設け、働き方について理解を深めた。各種書類の作成や面接については、授業内で基本的な内容を伝え、その後各学科教員やキャリアサポートセンターのスタッフが履歴書やエントリーシート添削及び面接練習等を行った。

4. 1年次「キャリアデザインⅠ」の最終回には、それまでのキャリア実践活動や自己理解の記録を整理して「キャリアデザインノート」を作成した。さらに、2年次「キャリアデザインⅡ」では、将来の生活を意識した「キャリアプラン」を考える時間を設け、進路選択や就職活動に繋げる資料を作成できた。

〈次年度への課題〉

1. 今年度の内容を継続しながら、自分のキャリアについて具体的なイメージをもつことができるよう、自己理解の演習を多くする。
2. 「キャリアデザインⅠ」では、社会人基礎力を高めるため、特に人間関係形成やコミュニケーションに関する演習を取り入れる。ボランティア活動についても、実際に参加できる身近な活動を紹介して参加を促進させる。キャリアデザインⅡでは、キャリアビジョンを具体化し将来の夢や卒業後の目標から今年度の目標を立て、振り返りを行う。
3. 次年度からは3年次の「キャリア実践Ⅰ」が必修科目となるため、就職に限らずキャリア実践の在り方や将来の働き方について考える内容を充実させる。就職希望の学生に対しては、例年通り、情報サイト会社による登録会を実施する。
4. キャリアデザインⅠで作成したキャリアデザインノートが、2年次以降のキャリアプラン作成やその後の進路選択に繋がるよう、振り返りとブラッシュアップを行う。

キャリア支援における連携体制の構築

〈今年度の取り組み状況〉

学生及び採用企業のニーズや社会情勢の把握に努めながら、「就職率100%」並びに「就職・進学率90%以上」を目指し、以下の対策を重点的に取り組んだ。

1. オープンカンパニーやインターンシップへの参加を勧める。
2. 就職関連行事及び就職説明会等の周知を徹底し、積極的な参加を働きかける。
3. 動画やオンラインによる面接、グループディスカッションの対策を強化する。
4. 「キャリア開発Ⅱ」の授業も活用し、3年次生の就職活動や書類作成を実践的に支援する。
5. 日本での就職を希望する留学生に対して、積極的な情報提供や就職ガイダンスを行う。
6. 学生の能力や個性を卒業後のキャリアに活かすため、学生部と連携した支援を進める。

各キャンパスにおいて実施した主なガイダンス及びイベント、参加人数は以下の通りである。

4月24日	スタートアップ講座　（志知）36名
6月12日・19日	業界研究　（志知）59名
10月3日	秋学期就職準備ガイダンス　（志知）12名
7月21日	留学生対象企業見学　7名
10月20日	就職ガイダンス「秋冬にしておくべき就職準備」4名
11月13日	吉備国際大学学内インターンシップ説明会・業界研究会 岡山県中小企業団体中央会協力：参加事業10社　参加学生35名
12月8日	就職ガイダンス「応募書類・面接攻略講座」8名
1月19日	就職ガイダンス「就活準備最終確認講座」12名
1月24日	就職ガイダンス　２年生対象（岡山）5名
3月1日	合同説明会　大阪（高梁・岡山・志知）28名
3月7日・8日	岡山県合同企業説明会ジップアリーナ　岡山 8名
3月12日	アジア地域出身留学生対象企業説明会岡山コンベンションセンター 6名

〈今年度の結果についての点検・評価〉

本学の学部学科の特徴を紹介する採用担当者向けのパンフレットを作成して発送し、採用企業への情報発信に努めた結果、4月から2月末まで本学学生を求める企業からの単独説明会申込数は107事業所であった。

2024年3月29日現在、2023年度の就職状況は就職率が91.2%(昨年同時期89.9%)であり、昨年度に比べて高くなっている。また、就職・進学率については93.1%である。

1. 企業等からキャリアサポートセンターに届いたオープンカンパニー及びインターンシップの情報をユニバーサルパスポート及び求人検索NAVIの「インターンシップ求人」にて学生へ周知した。講義やガイダンスでは、情報サイト会社からインターンシップの意義や申し込み方法等を説明していただき周知した。
2. 学内では、単独説明会の依頼があった企業による説明会を実施し、少人数ではあるが就職内定に繋げることができた。各イベントの実施にあたって、ユニバーサルパスポートやキャリアサポートセンターの掲示板、各学科教員からのチラシ配布によってに参加を促したが、想定以上に参加学生が少ない状況であった。
3. キャリアサポートセンターが導入している求人検索NAVIの個人（グループ）面談予約から申し込みのあった学生に対して、進路相談をはじめ面接の練習、履歴書添削などオンラインも活用して実施した。予約時間については学生の休憩時間を考え、昼休み時間にも対応できるよう工夫した。
4. 3年次のキャリア開発Ⅱでは、就職に対して実践的な講義を実施した。卒業生アンケートの意見から、学生時代に強化したい内容を外部講師に伝え、講義内容に取り入れた。
5. キャリアサポートセンター内に留学生コーナーを設置し、就職情報や就職に関する図書の貸し出しを行った。また、留学生を採用している企業に来学していただき、学内での単独説明会を実施した。就職活動の準備等についてのガイダンスも実施し、履歴書に記載する日本語や誤字等に関する練習用のプリントを用いて支援した。
6. キャリアサポートセンターが実施するイベントやセミナーについて学生課や留学生課へ情報提供を行い、各課と連携して学生支援に取り組んだ。

〈次年度への課題〉

1. キャリアサポートセンターに届くオープンカンパニー、インターンシップの情報が学生に伝わるよう、キャリアデザインⅡ・キャリア実践Ⅰの授業内で説明と周知を行う。
2. 学内での単独説明会参加の意義やメリットを伝え、説明会への参加人数を増やす。また、学生が参加しやすい日程を考え、コロナ前に実施していた学内面談会も企画する。
3. 就職支援の予約について学生へ周知徹底を行い、スムーズに対応できるよう取り組んでいく。
4. 次年度から3年次にキャリア実践Ⅰ（必修）とキャリア実践Ⅱ（選択）が開講となるため、選択科目であるキャリア実践Ⅱを履修してもらう工夫が必要である。
5. 留学生を採用できる企業の開拓及び学内での企業説明会の実施。ガイダンスの強化、留学生に特化したガイダンスを強化する。
6. 留学生にとっては、キャリアサポートセンターよりも留学生課からの連絡の方がスムーズにいくことが多いため、次年度も就職に関する情報提供について留学生課と連携していく。また、近年障害学生に対する支援が増えているため、次年度はより一層障害学生に対する支援を充実させる。

４．図書館の活用

図書館環境の充実

【所蔵図書の新陳代謝の促進】

〈今年度の取り組み状況〉

2023年度の蔵書冊数は247,239冊（内洋書38,200冊）、年間受入れ図書は1,583冊であった。学術雑誌については、所蔵雑誌種類846種（内外国雑誌396種）、年間受け入れ雑誌101種（うち外国雑誌5種）である。購入図書の選定にあたっては、教員や学生からの推薦・希望を受け付けることとし、教育研究に資する図書の充実などに努めている。また、図書の除籍や雑誌の購入継続・廃棄などに関しては、図書館運営・研究紀要編集委員会において審議されている。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

概ね順調な業務ができた。10号館図書館の閉館を含め、図書館の物理的な受入れ可能量があるので、昨年度に引き続き除籍・無償譲渡・廃棄を進めた。選択と集中を念頭に、適時適切に除籍を進める必要がある。

〈次年度への課題〉

選択と集中を念頭に、計画的な除籍作業や適切な資料管理に取り組む。

【図書館ホームページの更新とデジタルコンテンツの拡充】

〈今年度の取り組み状況〉

図書館ホームページの更新内容は、南あわじ志知キャンパス図書館のコンテンツ追加、高梁キャンパス館内Mapの修正、図書館ガイド・図書館利用案内(電子版)の刷新を行った。高梁キャンパス図書館の蔵書構築を大幅に変更し、所蔵館のデータ修正を行う事で、資料の所蔵場所検索を簡素化し、利用者の利便性を図った。外部からの攻撃を受けたため、学園内関係部署の協力を得ながら、セキュリティ対策の強化を行った。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

図書館利用案内資料の電子化に積極的に取り組み、デジタルコンテンツを拡充することができた。

〈次年度への課題〉

外部からの攻撃を防ぐため、引き続き学園内関係部署の協力を得ながら、セキュリティ対策の一層の強化が求められる。今後も利用者のニーズに応じて引き続き、図書館ホームページの更新作業、蔵書構築の再検討を進めて行く。

【ラーニングコモンズ企画展示の実施】

〈今年度の取り組み状況〉

事業所、学科等との連携事業、交流事業、イベントと連動した企画展示の実施を行った。2023年度の企画内容は「雛祭り展示(4月)」「アニメーション文化学科 作品展(5月8日～6月9日)」「UNICEF東京事務所によるオンラインイベント(5月17日)」「うぇるふぇあ・障害者アート展(6/15～7/14)」「高梁市市内の小・中学生を招いたイベント(7月7日)」「認知症サポーター企画展示(7月26日～8月28日)」「旭川荘ギャラリーアート展(11月1日～11月30日)」である。また、企画展示に応じた図書館資料の展示を行った。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

活動内容は、年々多様化しており、内容も充実してきているのは評価できる。企画展示に応じた図書館資料の展示を行うことで、資料の利用促進にも繋がった。ラーニングコモンズの活動が認知されていると判断できる。

〈次年度への課題〉

自主的で多様な活動を目指し、今後も新たな活動が展開できるように検討することが必要である。図書館資料の利用促進やラーニングコモンズの施設機能の活用を進める。

【その他】

〈今年度の取り組み状況〉

ビックリユース等図書館企画は、コロナ禍前の状態に戻し実施した。2023年度の総入館者数は45,450人（内訳：高梁キャンパス43,159人・南あわじ志知キャンパス1,457人・岡山キャンパス834人）であり、図書の貸出冊数は2,153点であった。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

10号館図書館の閉館作業はあったが、図書館としてできることは可能な限り実施した。南あわじ志知キャンパスの総入館者数(前年比207.85%)、貸出冊数(前年比138.96%)は増加した。

〈次年度への課題〉

図書館システム、蔵書構築の更新を実施し、利用者サービスの向上と業務の効率化を図る。

図書館システムの更新が完了したため、運用を適切に行っていく。選択と集中を念頭に、物理的な受け入れ可能量をもとに紙媒体の除籍を進め、オンラインコンテンツへの移行も積極的に行う。

５．学修環境の整備

施設・設備の整備

１．安全性に配慮した環境整備

〈今年度の取り組み状況〉

１）和田町の学生駐車場出入口にミラーを設置した。
２）学園橋から8号館入口までの街路灯を水銀灯からLEDに交換した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

１）ミラーを設置したことで駐車場への出入りの際の安全性が向上した。
２）街路灯をLEDに交換したことにより、照度が上がり日没後の学生の通行の安全性が向上した。

〈次年度への課題〉

街路灯の設置がまだ充分ではないため、次年度も引き続き街路灯の交換、増設が必要である。

２．教育効果・学生の満足度向上に資する環境整備

〈今年度の取り組み状況〉

１）私立学校施設整備費補助金（ICT活用推進事業）を活用し、岡山キャンパスと南あわじ志知キャンパスのネットワークの見直し及び整備を行った。
２）令和４年度から導入したパソコンの必携化による教育効果を高めるため、私立大学等研究設備整備費等補助金を活用し南あわじ志知キャンパスの情報処理室のリプレイスを行った。
３）旧漁協の施設を改修し、農学部海洋水産生物学科臨海実習棟の整備を行った。
４）高梁市楢井サッカー場の人工芝張替え工事を行った。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

１）令和4年度からのパソコンの必携化の導入と機器の老朽化による接続の遅延や不安定な状況が改善され、ネットワーク環境が向上した。
２）単にパソコンを配列した情報処理室ではなく、ノートパソコンと大型提示装置やタブレット等多様なICT機器を連携させることにより、アクティブラーニングが可能となった。また、備え付けのパソコンを学生が持つパソコンの標準より高スペックとすることで高いコンピュータ処理性能を必要とするデータ解析や画像処理等が可能となった。
３）令和５年４月に開設した海洋水産生物学科の実習が令和６年度から始まるにあたり、南あわじ市阿那賀にある旧漁協の建物を改修することで、目前が海、実習船も目の前という当該学科に最適の環境下に実習棟を整備することができた。
４）サッカー場の陥没箇所も修繕でき、学生が安全な環境で授業や課外活動を行うことが可能となった。

〈次年度への課題〉

臨海実習棟の建屋は完成したが、養殖に必要な屋外水槽設備の整備は間に合わず、次年度に行うこととなった。

３．省エネルギーに配慮した環境整備

〈今年度の取り組み状況〉

１）高梁キャンパス１４号館、南あわじ志知キャンパスの事務室の照明器具をLEDに交換した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

１）照明器具をLED化することで消費電力・光熱費の削減につながった。

〈次年度への課題〉

ほぼ終日点灯している照明器具をLEDに交換することで、消費電力・光熱費ともに削減できるが、南あわじ志知キャンパスのLED化が遅れていることが課題である。

Ⅳ．研究推進について

１．研究力の強化

〈今年度の取り組み状況〉

① 5月31日（水）に科学研究費補助金採択率の向上を目的として、「科学研究費補助金研究計画調書の書き方きほんの「き」」と題して講習会を行った。
② 8月26日（水）に科学研究費公募要領等説明会を開催した。
③ 令和5年度は、科学研究費は新規の応募が23件あり、新規採択件数は2件であった。新規応募に対する採択率は8.7%であった。なお、継続も含めた採択件数は15件であった。また、本学の教員が科学研究費の分担研究者として11件の研究が進められている。科学研究費補助金以外では、研究助成金・受託研究等14件が助成を受けて研究が進められている。
④ 学内共同研究費の配分については6件の研究について研究費を配分した。加えて、SDGs教育研究活動助成金2件、地域貢献教育研究活動助成金2件を助成した。
⑤ 研究部門自己点検・自己評価報告書を作成し、外部評価委員からの評価を受けた。
⑥ 令和5年度は全学で学術論文81件、雑誌投稿等7件、講演・口頭発表189件、著書・作品21件の研究成果が発表された。
⑦ 全教員が年2回のresearchmap更新を実施し、研究成果を発信した。
⑧ 3月14日（木）に順正学園学術研究交流会を開催して研究交流の推進を図った。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

科学研究費は継続も含めた採択件数は15件であった。全体的には研究費の獲得も評価することができる。一方、新規の応募に対する採択率が8.7%と非常に低くなっている。令和5年度は、学術論文は81件であり令和4年度の82件とほぼ同じであったものの、講演・口頭発表は令和4年度の165件から189件へと増加している。今年度も活発な研究活動が行われたと評価できる。

研究部門自己点検・自己評価は評価報告書を作成し、外部評価委員からも評価をいただき、計画通りに実施できた。

順正学園学術研究交流会は、学園内の研究活動の情報共有と活性化に貢献していると高く評価できる。

〈次年度への課題〉

科学研究費補助金の新規採択率が8.7%と非常に低いことが課題である。科学研究費補助金採択率の向上を目的として、今年度開催した科学研究費補助金研究計画調書の書き方講習会の成果を検討し、次年度の方策を検討する。さらに、科学研究費公募説明会を充実させ、学内共同研究費の効果的配分を行うことにより、科学研究費補助金の採択数向上を目指す。

全教員が年2回のresearchmap更新を確実に実施し、研究成果を発信する。また、順正学園学術研究交流会の内容を充実させ、研究交流の推進を図る。

２．社会実装の推進

〈今年度の取り組み状況〉

① それぞれの教員が自治体・産業界・他大学等と産学官連携研究を推進しているが、大学、学部単位での連携は出来なかった。
② リサーチパーク研究発表会は1件の発表を行った。
③ 地域貢献教育研究活動助成金2件及びSDGs教育研究活動助成金2件に研究費を配分し、地域志向研究を推進した。
④ 地域連携研究および地域社会の課題解決を目指した学科単位での研究は一部の学科にとどまった。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

大学、学部単位での産学官連携研究ができなかった。また、リサーチパーク研究発表会での発表は1件にとどまった。学外との研究連携は個々の教員の連携にとどまっており、大学全体としての連携が出来ていないことが課題である。

地域貢献教育研究活動助成金及びSDGs教育研究活動助成金を充実させ地域志向研究を推進することは出来たが、さらに地域連携研究および地域社会の課題解決を目指した研究を推進する必要がある。

〈次年度への課題〉

大学あるいは学部単位での産学官連携研究の推進が課題である。学部の専門性を活かした研究会を設置し、共同研究を実施する体制を整備する必要がある。リサーチパーク研究発表会などによる学外との研究連携は引き続き推進する。

地域貢献教育研究活動助成金及びSDGs教育研究活動助成金による地域志向研究を推進するとともに、地域と連携した研究を推進する。

3．研究倫理・コンプライアンスの充実

〈今年度の取り組み状況〉

① 5月31日（水）にコンプライアンス教育・研究倫理教育を実施した。今年度も研究倫理違反はなかった。
②「コンプライアンス教育・啓発活動実施計画」に基づき研修会を開催すると共に、学長が研究規範の遵守等についてメッセージを発信し、コンプライアンス違反ゼロを継続した。
③ 動物実験の自己点検・自己評価を行い、9月5日（火）に動物実験外部検証現地個別相談を受けた。その結果を受けて吉備国際大学動物実験規程を改定した。
④ 11月7日（火）に動物実験に関する教育を行うとともに、実験動物慰霊祭を開催した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

コンプライアンス教育･研究倫理教育については、研修会を開催すると共に、学長が研究規範の遵守等についてメッセージを発信した。また、学生に対しては演習科目等の授業で研究倫理教育を行うことをシラバスに記載し、演習科目等において各学科が研究倫理教育を行った。コンプライアンス教育と研究倫理教育は適切に推進できていると評価できる。

動物実験については、令和6年度に外部検証を受審するための準備を行った。その際、規程の不備があったため、動物実験規程を改定した。

〈次年度への課題〉

コンプライアンス関連規程および研究倫理関連規程の周知と違反の予防を図る。研究倫理教育を一層充実させ、倫理違反ゼロを継続する。また、コンプライアンス教育・啓発活動を充実させ、コンプライアンス違反ゼロを継続する。

令和5年度動物実験自己点検・自己評価書を作成し、令和6年度に日本実験動物学会の外部検証を受審する。

4．安全への配慮等

〈今年度の取り組み状況〉

① 化学物質についてのリスク管理を徹底し、事故等の未然防止に努めた。
② 毒劇物、麻薬類、放射性物質等について、法令に基づき管理を徹底した。
③ 組換えDNA実験安全管理規程の確実な遵守を呼びかけ、DNA実験等の安全管理に努めた。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

化学物質の実験上の安全への配慮については、環境マネジメントに一環として化学物質の管理を行っている。

組換えDNA実験については、組換えDNA実験安全管理規程の確実な遵守を呼びかけた。

〈次年度への課題〉

実験の安全管理については、法令遵守を基本として、徹底したい。

Ⅴ．大学運営について

１．持続可能性の追求

ＳＤＧ’ｓ達成を目指した活動の推進

〈今年度の取り組み状況〉

① 教員の研究活動をSDGsに紐付けし、持続可能性に寄与する研究の推進を目指す予定であったが、実施することが出来なかった。
② SDGsを指向した教育研究を推進するため、SDGs教育研究活動助成金で2件の研究を助成した。研究成果は「吉備国際大学研究部門自己点検・自己評価書」に掲載した。
③ 大学の組織活動をSDGsのゴールに紐付けする予定であったが、実施できなかった。
④ 全ての授業内容をSDGsの17の目標に紐付けしてシラバスに記載し、持続可能性に寄与する人材を育成している。
⑤ 吉備国際大学のSDGsへの取り組みについてはホームページに掲載しているが、SDGs活動の評価システム及び情報公開システムの構築は出来なかった。
⑥ 8月2日(水)、3日（木）に開催された「おかやまSDGsフェア」に出展し、本学の取り組みを紹介した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

今年度は研究活動についてSDGsの17の目標との紐付けを行う予定であったが、実施することが出来なかった。SDGs教育研究推進経費によるSDGs教育研究の推進は2件を助成したが、教員へのSDGs推進に対する意識の向上が課題である。

全ての授業科目について、各授業がSDGsのどのゴールに関係しているのかについて紐付けを行い、シラバスに掲載した。学生教育においてSDGsを意識した教育ができたと考えられる。

大学の組織活動のSDGsへの紐付けも実施することが出来なかった。吉備国際大学のSDGsへの取り組みについてはホームページに掲載しているが、SDGs活動の評価システム及び情報公開システムの構築は出来なかった。一方、「おかやまSDGsフェア」に出展し、本学の取り組みを紹介することが出来た。

〈次年度への課題〉

SDGs活動に関する情報公開ができていない。「サステナビリティレポート」の発行を目指すとともに、ホームページでの情報公開と情報発信を行う。

個々の研究活動をSDGsに紐付けし、持続可能性に寄与する研究の推進を目指す。また、大学の組織活動をSDGsのゴールに紐付けし、全ての活動を持続可能性に向ける。

引き続き、全ての授業においてSDGsを意識した持続可能性に寄与する人材を育成する。

環境マネジメントの推進

〈今年度の取り組み状況〉

① 年平均1%以上のエネルギー消費量の削減を目指して、省エネ活動を行った。
② 学内照明のLED化の年次計画を作成し、LED化を実施した。
③ 啓蒙活動により省エネ活動を実施した。
④ 2030年温室効果ガス排出量-46%(2013年度比)に向けた取組を行っている。
⑤ EMS活動計画の確認、環境目標設定の明示、前年度取り組み状況の報告等、EMS委員による情報交換を行った。教授会やガルーン掲示板を通じて、全学的にEMS活動の周知と取り組みの推進、活動実績の公表を行った。
⑥ 環境負荷項目のデータ収集と解析、各学科の活動把握（環境教育，環境美化，化学物質保管状況）、環境目標設定に対する達成状況の算定を行った。
⑦ 海洋水産生物学科が設置されたことに伴い、南あわじ志知キャンパスにおけるEMS活動の推進と情報収集の継続的取り組みを行った。
⑧ オリエンテーションの時に新入生に対して環境マネジメント教育を実施した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

環境マネジメントについては、例年通りデータの収集と解析を行った。電力消費・廃棄物発生量・印刷用紙使用量の増加が確認されるなど、目標未達成の状況が見られた。

新入生に対するEMS教育は継続して実施しており、環境意識の醸成に繋がっていると思われる。

〈次年度への課題〉

環境マネジメントの取り組みを継続して推進し、年平均1%以上のエネルギー消費量の削減を達成する。

南あわじ志知キャンパスの環境マネジメント活動の推進と情報収集の継続的取り組みを行っていく。

新入生に対するEMS教育を継続して行う。

２．職能開発の強化

ＦＤ・ＳＤの充実

〈今年度の取り組み状況〉

建学の理念に基づき、教育目的および教育目標（ブランドビジョン）を具現化すべくFD･SDに取り組んでいる。授業の内容および方法の改善を図り、教育研究活動等を適切かつ効果的に推進するための組織的な研修機会を設けている。今年度は以下の通り研修会を開催し、教職員の資質向上と能力開発を進めてきた。

1. 全学FD･SD研修会

［日時］

令和5年8月23日(水)14時00分～15時30分（春学期）

［方法］

Microsoft Teamsによるオンライン開催

［対象者］

吉備国際大学に所属する教職員及び大学院博士後期課程在学生

［目的］

社会で求められる汎用的な能力・態度・志向等のジェネリックスキルを測定・育成するため、PROGテストを今年度から導入し、学修成果可視化に取り組んでいる。7月には学生らに対して結果のフィードバックが行われている。本研修会では、PROGテストの内容および詳細な分析結果のフィードバック等に関して教職員らが知識を身につけ、理解を深め、本学の教育目標（ブランドビジョン）の達成に寄与し、今後の教育に役立てることを目的とする。

［内容］

講演テーマ　学修成果可視化のためのPROGテストの活用

講師　石川純一 氏（株式会社リアセック キャリア総合研究所 主任研究員）

2. 学科別FD研修会

［日時］

令和5年10月～令和6年3月（秋学期）

［方法］

研修内容は各学科のFD・SD推進委員が学科長と相談しながら検討し、各学科の状況を鑑み学科の特色に応じたFD研修会を以下の手順に沿って実施

(1) 実施案の提出

研修内容の決定後、各学科のFD・SD推進委員は同委員会へ実施案を提出

(2) 学科別FD 研修会の実施

実施案に沿って学科別FD研修会を開催

(3) 実施報告の提出

研究会の実施後、各学科のFD・SD推進委員は同委員会へ実施報告を提出

欠席者に対しては動画資料や資料配布等の代替措置を講じ、全教員が参加できるように配慮

［対象者］

各学科の教員

［目的］

学科別FD研修会を開催し、学科の特色に沿った内容について組織的な研修を行い、教育あるいは授業内容および方法等の改善を目的とする。

［内容］

各学科の実施内容は以下の通り。

・経営社会学科

テーマ　教学マネジメントセミナー：改革を推進するためのマネジメントとリーダーシップ

・スポーツ社会学科
テーマ　基礎演習改善の評価について
・看護学科
テーマ　最新の看護師国家試験動向と学生対応について
・理学療法学科
テーマ　授業に適応しない学生や、学修者として適性の低い学生への対応
・作業療法学科
テーマ　授業改善のための授業分析
・心理学科
テーマ　生成AIの理解と授業での活用
・アニメーション文化学科
テーマ　高校デザインの現状～アニメーションの制作の導入
・地域創成農学科・海洋水産生物学科
テーマ　学生満足度向上に向けた学生配慮と教育・研究の両立方法を学ぶ
・外国学科
テーマ　スタディーアブロード事前指導における学生らの留学準備状況の把握、発表およびグループワーク等のアクティブラーニングの向上

以上の通り研修会を実施した。このほか、SD研修の一環として研究推進部門が中心となりコンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を開催した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

春学期には全学FD･SD研修会を開催し、秋学期には学科別FD研修会を開催した。全学FD･SD研修会では、全学が抱える共通課題を取り上げ、学科別FD研修会では、学科の特色に応じた課題を取り上げ、組織的な研修機会を設け、教職員の資質向上と能力開発に努めている。

全学FD･SD研修会では、本学は学修成果可視化のためPROGテスト（社会で求められるジェネリックスキルを測定するためのテスト）を今年度から実施していることから、この分析結果およびフィードバック等について、教職員が知識と理解を深め、今後の教育に役立てている。

学科別FD研修会では、学科によって専門分野が異なることから、学科の特色に応じた研修会を開催した。各学科のFD・SD推進委員が学科長と相談しながらテーマ、内容、方法等を検討し実施している。実施案および実施報告書はFD・SD推進委員会で情報共有し、他学科教員も当該学科の研修会へ参加できるようにしている。

以上の通り、教職員の資質向上と能力開発に資する研修会を実施できた。

〈次年度への課題〉

建学の理念、教育目的および教育目標(ブランドビジョン)を実現するために、FD・SDを充実していく。職能開発の強化については、FD・SD推進委員会が中心となって、教育研究および授業の改善、本学の特色である地域連携・地域貢献ならびに国際化、大学運営に必要な知識の習得と情報共有等に関し、全学あるいは学科別の組織的な研修の機会を設け、教職員の資質と能力の向上に取り組んでいく。

３．人権・安全への配慮の充実

労働環境の整備、充実

〈今年度の取り組み状況〉

・公益通報等
公益通報に関してコンプライアンス窓口を設け、通報者に不利益が生じないよう公益通報者保護の制度を整備し適切に機能させている。

・職場環境セルフチェック
職場に健康管理・安全衛生上の問題がないかどうかをチェックする職場巡視について、衛生委員会においてチェックリストを準備し、個人研究室を中心に自主的にチェックしていただいた結果に基づき環境改善の参考とする取り組みを行った。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

「公益通報等に関する規程」に則り、コンプライアンス窓口を法人本部総務部総務課及び大学庶務部庶務課に設置して体制を整備している。なお、今年度に関しては窓口への通報はなかった。

〈次年度への課題〉

引き続き、公益通報に関する体制を整備し適切に機能させる。また、そのほか労働環境の整備、充実に努めていく。

職場巡視について、個人研究室を中心にセルフチェックを実施しているが、共有部分のチェック体制の確立が課題である。

人権関連の研修の充実

〈今年度の取り組み状況〉

・人権教育推進
岡山県大学人権・同和教育懇談会の書面による研修会に参加した。資料が取りまとめられ次第、本学人権教育委員会で情報共有を図り、岡山県内の大学の取組状況結果をもとに本学の人権教育について見直し等を行う予定である。

・人権教育研修会（学生対象）
学生を対象とした人権教育にかかる研修会については、来年度から実施される全学空きコマを活用して、SNSの誹謗中傷などをテーマに検討を進めている。

・キャンパスハラスメントの防止
例年通り、ポスターを作成して啓発活動を実施した。
また、教職員一人ひとりがハラスメントへの理解を深め、学内全体でハラスメント行為を発生させない環境づくりに努めるため、全教職員を対象とした「ハラスメント防止研修会」を法律事務所の弁護士を講師として招き、令和５年８月３０日（水）に開催した。

・障がいのある学生への配慮
「合理的配慮ハンドブック（独立行政法人日本学生支援機構）」を教職員に配布し、障がいのある学生への配慮と支援方法の周知徹底を図った。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

人権教育については、教職員に対しては例年通り実施できた。学生の人権教育研修会は、コロナ禍でしばらく実施できていなかったため、来年度の実施に向けて準備を進めている。

キャンパスハラスメントについても例年通り啓発活動を行うとともに、相談事例についても適切な対応を行った。

〈次年度への課題〉

人権に関して配慮が必要な事項が多様化する中、学生及び教職員に対して適切な教育、研修が必要となってきている。本学でも障がい学生、LGBTQ等の学生、外国人留学生など、多様な学生を受け入れており、必要な対応ガイドラインなどの整備や人権教育により、差別のない環境づくりが今後の課題となる。

また、キャンパスハラスメント防止研修会は全構成員を対象とするが、相談員を対象とする相談対応法などの研修の実施を検討する。

４．法人部門との連携の円滑化

管理運営機関の連携と相互チェック

〈今年度の取り組み状況〉

理事会には学長が理事に就任し、また評議員会には副学長、学部長、附属図書館長等の大学教職員が評議員に就任しており、学園の意思決定において大学の意見を述べている。

また、学園協議会により設置校間に共通する重要事項を協議し相互の連携強化と業務の円滑化を図っている。大学協議会により大学の教学に関する重要事項の決定について理事会との意見調整を行い意思決定の円滑化を図っている。事務部門においては、事務連絡会議により理事長、学長、校長出席のもと学園全体の全事務部門が情報共有を行い業務の円滑化を図っている。

さらに、これらの理事会、評議員会、学園協議会及び大学協議会等の組織構成により相互チェックの体制を整備し、大学から法人経営に参画するなど相互チェック機能を機能させている。

監事は理事会、評議員会に出席してその運営を監査するとともに、法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行状況について意見を述べている。また、ガバナンス・コードにもとづき常勤監事１名を置き、会計監査や業務監査を実施してその結果を理事長に報告している。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

理事会、評議員会を定例、臨時に開催しており、学長は理事として、副学長、学部長等は評議員として、それぞれ出席し学園の意思決定に大学の意見を述べている。また、５月と12月に学園協議会を開催し、設置校間に共通する議題を協議するとともに連携強化を図っている。事務部門では、理事長出席のもと毎月、事務連絡会議を開催して情報共有を行い業務の円滑化に努めている。さらに、これらの会議体を適切に運営することで相互チェック機能を果たしている。

監事は理事会、評議員会に出席するとともに、常勤監事１名は、法人本部に週２日出勤して、監査計画にもとづき監査を行っている。監査にあたっては内部監査部門である法人本部総務部や監査法人と連携して業務にあたっている。

〈次年度への課題〉

引き続き、法人レベル、大学レベルで使命・目的の達成に向けて意思疎通ができるよう管理運営組織の体制を整備し機能させる。また、経営部門と教学部門との連携強化を図るとともに、相互チェック体制を整え機能させていく。

５．財政基盤の確立

中期的な計画に基づく財務運営と安定した財務基盤の確立

〈今年度の取り組み状況〉

今後の学園の財務状況の推移を把握するため、決算にもとづき現状に即した中期財務計画へと見直しを行った。

収支バランスを確保するため学納金収入の増加、経費の削減に積極的に取り組んでいる。令和６年度には吉備国際大学心理学部心理学科、保健医療福祉学部作業療法学科及び理学療法学科を改組し、新たに人間科学部人間科学科を開設するなど改組を含めた収支改善にも取り組んでいる。

また、吉備国際大学高梁キャンパスの高梁市・順正学園特別奨学金制度や、九州保健福祉大学及び九州保健福祉大学総合医療専門学校の令和６年度の名称変更を広報し学生定員確保に努めている。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

令和４年度決算をもとに中期財務計画を見直し、学園の今後の財政状況の推移を把握している。

また、収支改善の取り組みとして、令和６年度にむけて各設置校において様々な改組等に着手するとともに、積極的に広報活動を展開し、定員確保を目指して学生募集に取り組んでいる。（吉備国際大学では人間科学部開設、看護学部への改組、九州保健福祉大学では九州医療科学大学への名称変更、スポーツ健康福祉学科の救急救命コース等開設、通信教育部社会福祉学部スポーツ健康福祉学科開設及びハイブリッドコース開設、九州保健福祉大学総合医療専門学校では九州医療科学大学専門学校への名称変更、そのほか応援学費や奨学金制度など）経費削減についても徹底しているが、令和６年度に向けた様々な取り組みのため、吉備国際大学農学部海洋水産生物学科の臨海実習棟改修、楢井グランド改修、九州保健福祉大学１号棟他改修、九州保健福祉大学総合医療専門学校改修など単年度の特別な支出が発生している。これらもまた中・長期的に見て必ず学生募集等に良い効果をもたらすものであり、今後一層、教育充実や広報活動強化を図っていく。

〈次年度への課題〉

引き続き、学園の財政状況について的確な現状把握に努め、実態に即した中期財務計画へと見直しを行い、計画にもとづき、安定した財務基盤の確立を目指して取り組んでいく。外部資金の獲得や、人件費及び経費の削減も積極的に推進するが、収支バランスを確保するためには、全設置校において学生定員充足による学納金収入の増加が喫緊の課題である。

６．適正な会計処理の実施

職員の知識向上

〈今年度の取り組み状況〉

８月に広島で開催された日本私立大学協会中国・四国支部経理部課長相当者分科会に会計担当者が参加し他大学の担当者と協議を行った。また、オンラインで開催された日本私立大学協会の全国レベルでの経理部課長相当者研修会に参加した。

大学の事務職員全体に向けてはインボイス制度の説明会を行い、本学での会計処理上のルール等について周知を行った。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

他大学と協議することで新たな情報を得ることができ、本学の会計処理方法改善の参考となった。また、オンライン研修の受講により会計担当者個々の知識が深まった。

事務職員に向けてインボイス制度の説明会を行ったことでより、処理方法の徹底ができ、起票時の課税区分については、より正確な処理が行われるよう改善された。

〈次年度への課題〉

より適正なミスのない会計処理を行うためには、会計担当職員だけでなく、全職員がある程度の知識を身につける必要があるが、現状では不充分なため研修をする必要がある。

会計監査の厳正な実施

〈今年度の取り組み状況〉

１）監査法人による会計監査

５月から３月までの間、１１日の期末・期中監査、高梁キャンパスでの実査を含めた監査法人による会計監査が行われた。この中では理事長と監事への面談及び監事への監査概要報告も行われた。

２）公的研究費の監査

常勤監事が公的研究費全件について、稟議書・証憑書類の監査を実施し、監査結果が３月２７日開催の大学協議会で報告された。また、内部監査部門である総務部が、４件を抽出し特別監査を行った。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

監査法人による監査、公的研究費の監査を滞りなく行い、適正な会計処理を行った。

〈次年度への課題〉

次年度も引き続き、監査法人及び監事に会計監査を継続的に実施する。

諸規定に則った適正な会計処理

〈今年度の取り組み状況〉

令和５年度の学校法人全体の予算編成方針に従い、大学においても各部門で目的別に積算し編成した予算をシステムに登録し、効果的な予算執行管理を行った。

会計処理を行うにあたり研究費の使用マニュアルを更新し、学校法人会計基準、順正学園経理規程に沿った会計処理のルールの共通認識の徹底を行った。また、会計処理に関する各部門からの相談には、監査法人等に確認の上対応した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

監査法人、監事、内部監査部門の監査結果報告に記されているとおり、全体的に適正な会計処理を行った。

〈次年度への課題〉

教職員に対して、ガルーンを活用し、会計処理に関する情報提供を綿密に行う必要がある。

Ⅵ．内部質保証について

１．内部質保証体制の確立

〈今年度の取り組み状況〉

(1) 中期目標・中期計画を起点としたPDCAサイクルの実現

令和5年3月に、令和5年度から令和9年度までの第3期中期目標・中期計画書を策定し、実行に移した。第3期中期目標・中期計画書の策定にあたっては、全面的に様式の見直しを実施し、大学機関別認証評価の評価項目に沿った項目で目標を設定した。また、中期目標・中期計画を各年度の事業計画に落とし込み、

各年度事業計画（P）⇒計画実行（D）⇒自己点検・自己評価（C）⇒改善指示（A）⇒翌年度事業計画策定（P）

というPDCAサイクルを実現し、内部質保証体制の確立を図った。

さらに、「キックオフミーティング」と「自己点検・自己評価委員会総会」を統合して、「自己点検・自己評価会議」として新たに実施し、学科・部門等の発表と質疑応答、外部評価委員との意見交換などを実施し、外部評価委員の評価を受けた自己点検・自己評価報告書と自己点検・自己評価会議の議論をもとに、毎年の事業計画を立案するという新たなしくみを構築した。

(2) 教学IRの取組み

令和4年1月に「吉備国際大学内部質保証推進規程」ならびに「吉備国際大学内部質保証の方針」を定め、内部質保証システム体制を構築した。さらに令和4年2月には「吉備国際大学アセス メントプラン」とその実行性を高めるための「アセスメント実施計画」を策定したが、点検項目の追加や実施時期の見直しを行い、内容の充実を図った。アセスメントプランの実施にあたっては、教育イノベーション課を中心に、計画に基づき各種アンケート、データの収集・分析等を実施し、担当委員会での検証を経て内部質保証委員会に報告した。すでに、授業アンケート、卒業時、入学時、卒業生、就職先の各アンケート、学生の学修及び生活に関するアンケートを実施し、その他各種データの分析結果も併せて、8月、11月に委員会に報告を行った。これらの結果から、必要な改善指示が内部質保証委員会から各学科、担当委員会に対して発出され、改善計画が報告されている。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

中期目標・中期計画を起点とした毎年度の事業計画の立案、さらには自己点検・自己評価による事業計画の見直し、というPDCAサイクルが構築された。

またアセスメントプラン実施計画に基づく点検と検証が計画通り実行され、内部質保証委員会による改善指示と改善計画策定という教学マネジメントが機能し、内部質保証の体制が確立しつつある。

〈次年度への課題〉

(1) アセスメントプランによる教育改善の実現

「吉備国際大学アセスメントプラン」に基づく「アセスメントプラン実施計画」は、見直しを行いながら、確実に実施できるようになっている。しかし、検証結果から導き出された“課題”を“改善”へと繋げるための改革のエンジンがまだまだ不十分だと考える。各委員会での議論を活性化し、内部質保証委員会の改善指示のもと改善案を策定し、必ず実行に移す。

(2) 教学IRデータの情報共有

収集したデータを共有フォルダ等に蓄積し、各学科や部局がカリキュラムや教育改善を検討する際に、いつでもデータが取り出せるよう情報共有する仕組みを準備中である。

【参考資料】内部質保証委員会の審議状況（令和5年度）

第1回（5/19）　・令和4年度教職課程自己点検評価報告書について
・令和4年度自己点検・自己評価報告書について
・令和5年度事業計画（案）について
第2回（6/ 7）　・理学療法学科並びに作業療法学科の「令和5年度教員資格及び教育内容等の自己評価書」の評価について
・令和5年度の退学者対策について
第3回（7/ 5）　・吉備国際大学の改組等について
第4回（8/ 2）　・情報の公表に伴うガバナンスコード実施状況報告書について
・保健医療福祉学部における国家試験対策の報告について
・2023年度学生生活等に関するアンケートの実施について
・学修成果可視化に関するデータの学科での検討結果報告について
・2023年度春学期の入学時アンケートの実施結果について
・2023年3月の卒業時アンケートの実施結果について
・アセスメントプランに基づく学修成果の可視化について
①学位授与率の推移　②国家試験合格率の推移　③中退率及び中退理由の推移　④入学前教育教科別全体実績について
・2023年度ジェネリックスキルテスト(PROGテスト)の実施結果について
第5回（8/21）　・ガバナンスコードの実施状況報告書（案）について
第6回（10/4）　・アニメーション文化学部アニメーション文化学科のカリキュラム変更に伴う吉備国際大学学則の一部変更について
第7回（11/8）　・心理学研究科博士（後期）課程のカリキュラム変更に伴う吉備国際大学大学院学則の一部変更について
・通信制心理学研究科博士（後期）課程のカリキュラム変更に伴う吉備国際大学大学院（通信制）規程の一部変更について
・学修成果可視化に関するデータの学科での検討結果報告について
・アセスメントプランに基づく各種データ集計結果の報告について
①2020年度入学生における入試制度の妥当性の検証について
②2023年度の入学時アンケートの実施結果について
③2023年3月及び9月の卒業時アンケートの実施結果について
④入学時アンケートと卒業時アンケートのDP達成度の比較について
⑤2023年度の卒業生・就職先アンケートの実施結果について
⑥2023年度教養科目履修率について
第8回(12/11)　・農学部地域創成農学科のカリキュラム変更に伴う吉備国際大学学則の一部変更について
・令和５年度自己点検・自己評価の実施について

Ⅶ．地域連携・地域貢献の推進について

１．地域連携・地域貢献の推進

〈今年度の取り組み状況〉

① 「地域連携・地域貢献の基本方針」を基にして、全学部、全学科が地域連携活動及び地域貢献活動に取り組んだ。
② 高梁キャンパス、南あわじ志知キャンパス、岡山キャンパスの各地域連携センター間の連携強化、3キャンパスの地域連携センターを統括する「地域貢献推進センター会議」を定例開催（第1水曜日）し、各キャンパスの地域連携、地域貢献の取り組みに関する情報共有をきめ細かく行った。
③ 「地域貢献教育研究活動助成金」により、教員の地域貢献活動を支援した。令和5年度は2件の地域貢献教育研究活動に対して助成した。
④ 自治体、産業界と連携協力協定は締結に至らなかった。
⑤ ボランティアセンターを始め、各教員、学生サークルがボランティア活動に参加した。
⑥ 高梁市、高梁商工会議所と産・官・学連絡会議を2ヶ月に1回開催した。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

地域貢献推進センター会議を毎月開催し、各キャンパスの地域連携、地域貢献の取り組みに関する情報共有をきめ細かく行うことができたが、各キャンパス地域連携センターの活性化が課題として残った。

地域貢献教育研究活動助成金により、教員の地域貢献活動を支援することが出来た。自治体との間で新規の連携協力協定は締結に至らなかった。

ボランティアセンターを始め、各教員、学生サークルがボランティア活動に参加した。多くの地域連携・地域貢献活動が行われているが、活動の整理が必要である。

高梁市、高梁商工会議所開催している産・官・学連絡会議により、情報交換が出来ている。

〈次年度への課題〉

引き続き「地域連携・地域貢献の基本方針」を基にして、全学部、全学科が地域連携活動及び地域貢献活動に取り組む。地域貢献教育研究活動助成金は令和6年度も継続し、教員が担う地域貢献活動の活性化を目指す。

多くの地域連携・地域貢献活動が行われており、活動結果報告してもらっているが、活動の整理が出来ていないことから、次年度は活動の整理が必要である。

地域連携・地域貢献活動の活性化のために、地域のニーズと大学のシーズを一致させる仕組みを検討する必要がある。

2．大学の持つ知の地域への還元

〈今年度の取り組み状況〉

① 高梁キャンパスで開催された「公開講座まちなかゼミナール」については、高梁・岡山キャンパス所属の教員により、前期8講座、後期8講座、計16講座を開催した。南あわじ志知キャンパスで開催された「地域創成生涯学習講座」は4講座を開催した。大学全体で計20の公開講座を提供した。

② 出張講義等については、出張講義が可能なリストを作成しホームページに公開しており、高等学校等からの依頼の都度対応している。

③ 学部単位でのフォーラム、講演会等の開催を目指したが、今年度は開催できなかった。

④ 大学コンソーシアム岡山の各事業を通じた地域連携・地域貢献活動としては、吉備創生カレッジへの講座の提供、「日ようび子ども大学」へのブース出展などを行った。

⑤ 第29回吉備国際大学英語スピーチコンテストを開催した。今後も国際大学として地域の高校生の皆さんに英語学習の成果を披露する場を提供する。

⑥ 大学公式ホームページを改善して地域連携・地域貢献活動を掲載したが、地域連携に関する情報発信欄を設置することが出来なかった。

⑦「地域連携・地域貢献活動事例集」を500部作成し、地域連携・地域貢献活動報告会で配付した。今後は高等学校等に配付する予定である。また、デジタル冊子を大学ホームページに掲載した。

⑧ 令和6年2月10日（土）に吉備国際大学地域連携・地域貢献活動報告会を開催した。参加者は56名であった。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

公開講座の開催、出張講義については計画通りに開催することが出来た。大学の持つ知の社会への還元については評価できる。一方、学部単位でのフォーラム、講演会等は開催できず、地域貢献が教員個々の活動に留まっている。

大学コンソーシアム岡山の各事業を通じた地域連携・地域貢献活動としては、吉備創生カレッジへの講座の提供、「日ようび子ども大学」へのブース出展などを行った。

高大連携についても出張講義を活用した出前授業、英語スピーチコンテストの開催により地域の高校生の支援が出来ている。

情報公開については、吉備国際大学地域連携・地域貢献活動報告会を開催した。また、大学公式ホームページを改善して地域連携・地域貢献活動を掲載したが、地域連携に関する情報発信欄を設置することが出来なかった。加えて、「地域連携・地域貢献活動事例集」を500部作成した。

〈次年度への課題〉

公開講座の開催等、大学の持つ知の社会への還元は出来ているが、教員個々の活動が中心であることから、大学全体及び学部としての講演会等の開催が課題である。

また、地域連携・地域貢献活動は活発に行われているが、情報の整理と情報公開に課題がある。また、ホームページ等を活用した情報公開が出来ていないことから、今後より効果的な情報公開方策を検討する。
本年度は「地域連携・地域貢献活動事例集」を作成すると共に、吉備国際大学地域連携・地域貢献活動報告会を開催した。次年度以降も開催する予定である。

3．地域貢献人材の育成

〈今年度の取り組み状況〉

① 学科専門科目の中での、地域課題解決人材を育成する授業の開講は出来なかった。
② 地域課題解決の担い手を養成・輩出する「地域貢献人材育成プログラム」の開設を目指したが出来なかった。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

学科専門科目の中での、地域課題解決人材を育成する授業の開講は出来なかった。また、地域課題解決の担い手を養成・輩出する「地域貢献人材育成プログラム」の開設も出来なかった。

〈次年度への課題〉

地域課題解決の担い手を養成・輩出する「地域貢献人材育成プログラム」の開設を目指す。

Ⅷ．国際化の推進について

1．国際化に向けた科目内容の充実

【海外留学・短期研修の促進】

〈今年度の取り組み状況〉

① 海外留学・短期研修プログラムを充実させ、外国語学部以外の参加学生の増加を図る。海外留学・短期研修については、外国語学部の学生を対象とするプログラムが多く、受け入れ人数的にも他学部の学生参加が限られる。今後は参加可能なプログラムの促進を図る必要がある。
② 生活基盤の安定化を図る支援（市民生活・住宅・アルバイト情報の提供等）を促進する。種々の情報提供を行っており、今後留学生のニーズを把握し、的確な情報提供を図る。
③ 留学生の母国語対応による支援体制の充実を図る。留学生課に中国、韓国、スリランカ国籍の職員を配置し、留学生の母国語対応を行っている。今後は、他国（インドネシア、ベトナム、ネパール等）の言語への対応を検討する必要がある。

〈今年度の結果についての点検・評価〉

① 今年度は外国語学部以外での海外留学参加者はいなかったが、ハワイ大学ヒロ校研修の報告会を実施し、多くの学生に留学についての興味を持つきっかけができた。
② 市内での交流イベントの告知やアルバイト情報の提供を行った。
③ 以前はインドネシア・ベトナム留学生の相談コーナーをアジア村に設置していたが、相談に来る学生もなく、あまり活用されている様子は感じられなかった。
国際交流の充実については、令和5年7月に実施したインターナショナルフェスタに高梁市内の中学生を招待して国際交流を行った。今後も地域社会との交流を図る。

〈次年度への課題〉

① 短期留学・研修先の確保及び参加者の募集方法を検討していきたい。また、来年度から加計学園と合同での海外研修団受け入れが決定し、積極的に交流を推進していきたい。
② 引き続き留学生のニーズを把握し、学生が求める情報を提供していきたい。
③ 留学生の相談コーナーは廃止し、新たなコミュニケーションツールを検討する必要がある。
国際交流の充実については、インターナショナルフェスタに加えて、松山踊り交流会を実施し、高梁の伝統文化に触れることで地域交流の場を与えるきっかけづくりに寄与する。

九州保健福祉大学

Ⅰ．令和５年度教育方針

九州保健福祉大学は、令和６年４月から『九州医療科学大学』への大学名称変更が決まっている。

令和５年度は、これまでの教育方針を継続しつつ、令和６年度からの名称変更に向けて種々の準備や改善も実施していく。

また、令和５年度は、本学の第３期中期目標・中期計画５年間（令和５年度～令和９年度まで）の初年度でもあり、昨年度から取り組む全学科共通の目標である「学修成果の可視化」の実現に取り組むと共に、大学のブランド力強化に向け、その成果の積み上げと検証を行い、新たな中長期計画の足掛かりとしたい。

なお、令和５年度からは、新型コロナウイルス感染症の規制緩和が推進されたことに伴い、ウィズコロナで得られた新たな気づきを最大限活用することを念頭に、コロナ前の日常を取り戻し、リスタートを迎えるためのチャレンジの１年間としたい。

（１）遠隔授業の継続的な実施と授業の質保証に取り組む。

⇒　対面授業を重視しつつ、都市部や遠隔地の授業担当者については、協議の上、オンライン授業に積極的に取り組んだ。

非常勤講師による遠隔授業：30 科目（完全遠隔３科目、一部遠隔 27 科目）

上記科目の授業アンケート結果

Q：授業に対するあなたの理解・達成度：この授業で学習意欲が高まりましたか？

回答者のうち、72%の受講生から該当する科目としての回答を得た。

（２）学修支援システムの効果的な利活用促進及び学修成果の可視化の実現に努める。

⇒　ユニバーサルパスポートの「学修ポートフォリオ」及び「マイステップ」機能の活用に着手するなど、教学 DX の推進に努めており、卒業時に向けた更なる利用促進が不可欠となっている。

1、2 年次生の入力（活用）者：160 名/367 名（43.6%）

（３）学部・学科の社会的・学術的役割、育成すべき人材像、教育システムの特色・強みを再検討し、明確化する。

⇒　３つのポリシーや履修系統図など、教学マネジメント体制の検証を行うと共に、ブランドビジョンとして掲げた『4 つの en』の実現に向け、内部質保証委員会を立ち上げ、取り組み強化に努めている。

令和５年度の取り組み成果としては、学修成果の可視化の一環として、3 つのポリシーに基づく教育成果の検証を目的に、外部の標準化されたアセスメントテストの導入検討を行い、『GPS-Academic【(株) ベネッセ i-キャリア】』の導入を機関決定し、令和６年度１年次生より実施予定にある。

この受検結果をもとに、学科ポリシーの検証や教育課程の見直しにも活用すると

共に、単なる医療・福祉職の養成に留まらず、汎用的能力である「問題を解決する力」の涵養に努めるべく、３つの観点（思考力）（姿勢・態度）（経験）から多角的に評価を行い、学生指導の一助とても活用する計画である。

（４）基礎学力の向上や遠隔授業の充実に資する e－learning システムの強化、及び、専門的授業科目との連携を明確化した初年次教育の見直しを図る。

⇒　初年次教育の重点項目に「国語力の強化」を掲げ、e－learning システム「すらら」の実施検証に努めると共に、大学共通基礎科目の見直しとしてデータサイエンス教育や学部学科横断科目となる医療・福祉連携講座、日向国地域体験学習を開講し、取り組み強化を行っている。

・日向国地域体験学習においては、県北 3 コース（延岡沿岸・高千穂・五ヶ瀬）を設定し、プログラム内容の充実と日向国地域論との連動性の確立を行った。

・データサイエンス教育では、文部科学省認定の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）への申請を念頭に、情報教育センターにおいて教育プログラムの検討を行い令和 5 年度に取り組みを行った結果検証を行った上で、5 月 13 日に申請手続きを完了した。

（５）各種資格試験・採用試験の 100%合格をめざして、その準備のための課外学習を組織化するとともに、大学生活の充実を図るために学部・学科・学年を超えた学生相互の交流活動を推進する。

⇒　全学部、全学年を対象に公務員試験対策講座を実施予定である。本学卒業生にも講師として参加いただき、公務員としてのやりがいや、現在の業務など、パネルディスカッションを計画している。具体的な試験対策として、専門の講師による録画面接のポイント、ケーススタディ対策などのプログラムを準備している。

（６）退学者・留年者ゼロをめざして、学習が遅れがちの学生、学習意欲を喪失しつつある学生、進路や対人関係等で悩んでいる学生への相談窓口体制を整備する。

⇒　2 回連続欠席者データの提供及び適切なチューター等学科対応について、教職員が連携した取り組みを徹底して行った結果、4 年連続で退学者の減少傾向を維持することが出来ている。

（R5 年度 19 名、R4 年度 19 名、R3 年度 24 名、R2 年度 41 名）

（７）教育の推進を図るためにも、研究活動の活性化を計画すると共に、あらゆる外部資金の獲得を目指した体制確保に努める。

⇒　改革総合支援事業や教育の質に係る客観的指標調査などの大型補助に加え、日本私立学校振興・共済事業団の一般補助や特別補助においても、不採択となった内容を中心に次年度に向けた更なる見直しを実施しており、外部資金獲得に向けて、全学的な協力体制の構築に努めた。

なお、その成果もあり、令和 5 年度の改革総合支援事業タイプ 1 の採択を得ることが出来た。

Ⅱ．各事業の概要

１．教育関係

（１）遠隔授業の在り方（実施方法）について継続検討を行い、より効果的な体制確保に努める。

また、中途退学防止に係る取り組みとして、その課題の根幹となるのが学力不足による就学意欲の低下にあると考えており、全学的に入学後のリメディアル教育の充実に引き続き取り組む計画である。令和 3 年度から取り組んでいる全新入生に配布の初年次テキストの利活用においても、各学科毎に取り組み内容を集約し全学的に共有することでその検証も行っており、更なる検討を進め、大学生としての学修の動機づけを行う取り組みを行っている。また、e-learning システム等を活用することによりレポートを書くための国語力向上を目指し、専門書を読む力をつけさせる。さらには、出欠管理システムを活用し、授業を欠席しがちな学生を早期に把握することにより、チューター及び学科の教員と連携して退学防止に努める。

※上記の取り組みは前段のとおり。

⇒　教育イノベーション業務の推進を目的に、現在学内において行われている各種アンケート調査等の内容を精査し、IR 情報として取り纏め、有効に検証できる情報収集に努めることで、教学マネジメント体制の強化に取り組んだ。

1)学修行動・学生生活に関わるアンケートの精査を行い、調査内容の充実を図り効果的な分析が行えるよう修正を行った。この改正した内容をもとに、今後は継続的な分析を行う予定である。

2)学内で行われている各種アンケート調査等の集約を行い、本学のアセスメントプラン作成に着手し、令和 6 年度に取り纏める計画である。

3)授業科目の成績評価の平準化を目的に状況の集約を行い、今後分析検討を行う計画である。

（２）昨年度の国家試験において、新卒者の合格率が全国平均以下となった資格が 11 種中 8 種となり、重大な課題となっている。学科毎に課題の検証を行い、対策の方法を全学的に共有することで、大学全体の底上げを図る計画である。また、卒業年次学生の卒業率の向上に取り組み、大学のブランド力の一つとして、在学生のみならず、既卒者への国家試験合格に向けての指導も継続して行う。

⇒　国家試験対策においては、各学部・学科ともに 100 ％合格をめざして、成績不良学生への個別指導はもちろん、専門業者による学外講座を開催するなど、実技対策として勉強会等を開くなど対策強化を行った結果、11 種中 8 種で全国平均を上回る結果なった。ただし、ストレート合格率など、社会に出回る各種情報の影響は多大であり、国試合格率の向上を全学的な課題として情報を共有し、対策強化を図る計画である。

（３）大学改革推進委員会が中心となり、教育イノベーション委員会および学園 IR 推進室により学生の入学動機や学修状況、学生生活などを調査し、その結果をもとに、教育の質の向上と授業の質保証に取り組み、学修成果の可視化を目指す。また、集計結果を内部質保証委員会や学長諮問会議でも活用し、自己点検・自己評価に繋げる。

さらに、教育の充実と学生満足度の向上を図るため、全学的な FD･SD 研修会を積極的に実施する。

⇒　学内での分析や実施に加え、高等教育コンソーシアム宮崎による FD 研修、SD 研修検討ワーキンググループ会議にも積極的に参加することで、本学単独では実施が難しい、幅広い内容の各種研修実施に向けて協議を進めた。

（４）大学は「楽しい学生生活」の場ではあるが、反面「危険がいっぱい」の場でもある。社会的なルールを守り、他人を思いやり、学生として正しく行動できる意識を涵養できるよう理解しやすい冊子を作成して学生に配布することで「危険を回避」して、問題が生じた際にも適切に対応できるようにする。また、南海トラフにより予想される巨大地震等の災害や火災事案等の有事に備えて、令和 5 年１２月に予定している防災訓練等を通じて基本的な防災行動力を身に付け、地震・火災発生時に迅速かつ冷静沈着な対応が取れるよう防災力向上を図る。

また、コロナ５類移行を受け、今まで沈静していた学生の課外活動や学生委員会を中心としたイベントや英語村主催のイベントにおける取り組みを促すとともに支援を図る。

⇒　「詐欺・悪質商法からの回避」、「便利さと危険が隣り合わせである SNS の適切な利用」、「ハラスメントの加害者・被害者にならないためには」等々の内容で構成されている『学生生活スタートブック』を配布し、学生生活に潜む【危険なこと】について周知するとともに注意喚起を行なった。また、11 月 4 日・5 日には 4 年ぶりに一般公開での第 25 回九保祭を開催して、地域の方々にも本学の存在を再認識してもらえるとともに、学生らにはともに作りあげるイベントの楽しさを共有することにつなげられた。さらに、12 月 7 日（木）には実践的な消防・防災・避難行動について、より一層の理解を深めることを目的として全学をあげての「防災訓練」を実施して、避難行動や危機管理についてのさらに高い意識付けを図った。

２．通信教育関係

（１）Web を利用した広報活動及び地域に特化した広報活動を行い学生募集に努める。

⇒　通信教育部のホームページをハイブリッドコースも含むアピールができるようにリニューアルを予定している。

スクーリング及び科目単位認定試験のオンライン化により広報活動に縛りがなくなるのでそれをプラスに捉え、広報媒体に参画している。

（２）社会福祉士国家試験対策の充実を図り、より学生に効果的な策を講じ、全国平均以上の合格率を目指す。

⇒　前年度と同様に専門業者でのオンラインセミナーを 9 月に実施した。12 月には本学の非常勤講師でもある教員による国試対策を予定している。

（３）e-learning システムの導入に伴い、単位認定試験のオンライン化を充実させる。

また新たなハイブリッドコースの円滑な運営に努める。

⇒　科目単位認定試験のオンライン化による混乱等はなくスムーズに移行できていると思われる。

またハイブリッドコースへも希望者がおり、今後は教務課との連携をはかり円滑に運営できるようにする。

３．研究関係

地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。

（１）科学研究費補助金等の申請について

文部科学省・日本学術振興会の科学研究費をはじめ、積極的に各府省・財団等の研究助成等の公募を配信し、外部資金の獲得を奨励する。

本年度の科学研究費助成事業は新規：6 件、継続：12 件（期間延長：4 件含む）であるが、採択件数は減少している。今年度は研究推進部門と連携し、科研費の採択件数の向上を目指し取り組んでいく。

科研費補助事業件数(期間延長を含む)　　(単位：件)

	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
継　続	17	19	16	15	12
新　規	6	2	4	4	6
合　計	23	21	20	19	18

⇒　令和 6 年度の科学研究費助成事業に向けた申請件数は 34 件で、令和 5 年度の申請件数 36 件より 2 件減少しているが、研究推進部門会議を中心に申請書の書き方の講習会や採択に向けたアドバイスの実施、申請書の事前確認などを実施することで、採択率の向上に努めた。

残念ながら令和 6 年度の新規採択結果は 4 件(継続 11 件)で、結果としては昨年度より減少してしまった。

（２）個人研究費について

個人研究費については、従来通りの研究業績に応じた配分方法を踏襲し、文部科学省の科学研究費の応募意欲の向上を目指した。また、他の競争的研究費についても奨励を図り、令和 6 年度に向けて配分方法の見直しを検討したが、共同研究費の獲得や外部資金等の獲得状況も踏まえて、より重点的な配分が行えるように、令和 6 年度も引き続き見直しの協議・検討を行うことになった。

（３）学内共同研究費について

学長裁量の一環として、学内の研究活動の推進と学内の教育改革や学修環境の

改善に取組むことを目的とし、研究費助成として「研究助成経費」と「地域創生事業助成経費」を、教育改革助成として「教育の質的転換」を設け、それぞれの研究活動の推進を図っている。具体的には、「研究助成経費」は教員の研究活動の推進を図り、「地域創生事業助成経費」は延岡市周辺の地域創生事業での社会貢献活動を、「教育の質的転換」は教育方法や学修環境の改善を目的としている。なお、申請者に対しては公平に審査・配分を行い、研究活動並びに地域貢献活動、教育の質の向上を推進する。得られた研究成果は、学内及び広く地域住民の目に留まる場所（イオン延岡等）において中高生・一般の方にもわかりやすい内容で広く研究成果をアピールする。また、加計勉記念館の一部に常設の研究成果を掲示するスペースの設置を検討する。さらに、研究経費助成や地域創生事業経費助成など現行の助成以外にも、学内資源の配分を見直すことで、国際的な研究を対象とした更なる助成体制を創設し、研究のグローバル化に取り組む。

⇒　令和5年度については、研究推進部門会議を中心に申請内容に応じて助成の配分を見直し、協議・選定を行った結果、研究経費助成が8件で4,700,000円、地域創生事業経費助成が10件で2,300,000円の採択となり、応募教員に配分した。

（4）外部資金導入の促進について

補助事業、受託事業、寄付事業などからの資金を積極的に受け入れ、教育と研究の推進を図る。特に、国内外との共同研究を重視し、その成果を学術論文として定期的に発表することを義務的目標とする。これにより、研究者の業績向上を促進し、その成果が他の研究活動にも波及することを期待する。さらに、商品化が可能な大学の知的財産としてリソースを共有することで、共同研究活動の推進を図ると共に、社会連携並びに社会貢献を目指す。

⇒　教員個々での外部資金獲得を奨励し注力することで、令和 4 年度の外部資金総額はこれまでを大幅に更新する約 5300 万円だったが、令和 5 年度の外部資金総額は、CREST などの大口の競争的研究費が終了したこともあり、約 4500 万円と少し減少（一昨年よりは増加）となった。

4.　就職･進路指導計画

（1）就職希望者の就職率 100%を目指すとともに、数値目標だけでなく個人指導に重きを置いた支援を通して、学生自身が自己の能力を見出し、向上を目指すことで、一人ひとりが、より満足度の高い進路選択ができるよう、良質のキャリアサポートを実施する。

⇒　常に学生との対面による個別面談を行うことに最も重点を置き、進路相談、履歴書等の添削指導、面接練習など、地元ハローワーク・ヤング JOB サポートみやざき・マイナビ・M3 キャリアと連携し、切れ目のない支援に取り組んでいる。また、就活メイク講座や面接対策講座、マナー講座、SPI 対策講座、公務員対策講座など就職に直結する各種の講座を実施している。最終の就職率は 98.9％で

あった。

（２）エンロールメントマネジメントの一環として、全学的にキャリア教育に取り組むことで、個々が目指す資格の魅力や、有資格者としての将来像を鮮明に描かせ、就労意欲の向上を図ると同時に、各学科のキャリアサポート委員を中心とする全教員と綿密に連携することで、修学支援新制度での要件を満たす「就職・進学率」90％以上を目指す。

⇒　就職進学における不安を気軽に相談できる窓口として、キャリアサポート専用アカウントで LINE を開設し学生の多くの不安に対し迅速に対応できる環境を整備している。また、本学卒業生によるキャリア形成セミナーを学内にて開催した。さらに、定期的に求人情報を学科のキャリアサポート委員を通じて学生に周知させながら、キャリア支援講座などを学部、学年問わず開催している。修学支援新制度における「就職・進学率」は 97.9％であった。

（３）県内の各団体等と連携し、「Work Café のべおか」などの催しを積極的に企画し、地元企業の情報および魅力を発信し、学生の地元就職への関心を高めることで、宮崎県内就職率 40%以上を目指す。また、近年、多様な特性を持つ学生が増加傾向にあるが、学生がより充実したキャリアを築くことができるよう、各種機関と連携しキャリアカウンセリングや職業診断などのプログラムを充実させ、個々に適した最善のキャリアデザインを描かせる。

⇒　「WorkCafé のべおか」を対面形式にて開催し地元延岡の魅力を学生に伝えることで、長期ビジョンで宮崎県内の就職率向上を図っている。また、労働力不足に不安を抱える山間地域の社会福祉協議会合同の業界研究会を開催し、働き手として地域からの期待を実感させるイベントを開催した。さらに、多様な特性をもつ学生の勤務先の開拓や、相談窓口として外部機関と連携し学生が一人で悩むことがないよう継続した支援を実施している。宮崎県内就職率は 30.7％であった。

（４）令和６年度の事務所移転後のキャリア支援を見越し、求人受付 NAVI の利用率を向上させると共に、九州内の求人数増加のために求人依頼送付事業所を再考する。また、受験報告書等の書類をデジタル化するなど、オンラインキャリアサポートを充実させることで、学生の満足度を高める。

⇒　求人受付 NAVI の利用を事業所・学生共に積極的にアナウンスし利用頻度を上げる努力を継続している。また、過去の受験報告書は、iPad にデータとして取り込み８月からデータによる閲覧を開始した。さらに、薬学科５年、その他３年を対象とした就職ガイダンスでは、これまで、紙で提出させていた求職登録をデータでの入力に切り替えるなど、デジタル化を推進している。

５．その他の事業

（１）「私立大学等改革総合支援事業」、「教育の質に係る客観的指標調査票」等で、求められている事項について学内整備を行い、採択を目指す。また、「修学支援新制度（教育費負担軽減）の更新申請」を確実に行うことで、コロナ禍の貧困学生の救済・支援に努める。

⇒　「私立大学等改革総合支援事業」、「教育の質に係る客観的指標調査票」及び「修学支援新制度（教育費負担軽減）の更新申請」については、予定どおり確実に申請を行った。

なお、「私立大学等改革総合支援事業」の申請に関しては、タイプ１の採択を得ることが出来た。

（２）地域との連携事業を推進する。

延岡市との連携により、受託事業である「発達支援システム事業促進支援業務」や「定住自立圏フィールド調査事業」を今年度も引き続き実施する。

⇒　令和５年度も延岡市との連携事業である「発達支援システム事業促進支援業務」や「定住自立圏フィールド調査事業」等の地域連携事業を受託し、地域に開かれた大学として、連携強化に努めた。

（３）宮崎県人権啓発推進協議会の委託を受けて、令和５年度も人権啓発活動協働推進事業を実施する。

⇒　2023 年 12 月 9 日(土)に「アドバンス・ケア・プランニング」を題材に基調講演「自分の人生を生ききる ～アドバンス・ケア・プランニングについて考えよう～」やパネルディスカッションなどを実施し、好評を得ることが出来た。

（４）延岡市教育委員会との共催である「のべおか子どもセンター」を開催し、親と子どものコミュニケーションづくりや家庭及び地域の子育て機能に貢献していく。

⇒　令和５年度もコロナやインフルエンザなど感染症の感染に配慮しつつ、「のべおか子どもセンター」を延岡市教育委員会との共催で開催し、本学教員６名による子育て講話や体験活動などを実施した。

（５）新型コロナウイルスの更なる感染拡大が懸念されている状況ではあるが、延岡市から依頼を受けて実施している「のべおか市民大学院」を今年度も年間 11 回と本学が開催する公開講座を６回開催する予定である。

⇒　令和５年度も予定どおりに、「のべおか市民大学院」11 回と本学公開講座６回の開催を行った。

（６）本学附属図書館では、平成 28 年度より、延岡市立図書館と認知症関連の書籍を主体とした共同企画展示をおこなっている。例年は「認知症」関連のテーマで開催し、好評を得ている。今年度も引き続き大学図書館と市立図書館の連携強化を図り、本学の教育・研究に対する地域住民の認知度を高めるよう取り組んでいく。また、ラーニングコモンズの利活用を促進し、アクティブラーニングと連動させ、学生が共に学び成長できる場としての附属図書館の積極的な活用を推進していく。

⇒　延岡市立図書館との合同展示は今年度も「認知症と食」をテーマに8/5～13の期間で実施した。また新入生対象、ゼミ単位での利用説明会を実施し図書館の積極的な活用を促した。

（7）令和3年度から参加を続けている「Out of KidZania in のべおか」に今年も参加する。令和3年度は薬学科、令和4年度は動物生命薬科学科が参加したので、令和5年度はまだ参加していない学科の中から体験する職種(資格)を選んで参加する。

また、「Out of KidZania in のべおか」が非常に好評だったことから、令和4年度より本学独自の「お仕事体験プログラム」を開催している。今年度も「Out of KidZania in のべおか」に参加していない学科を中心にして、「お仕事体験プログラム」を開催する。

⇒　令和5年度の「Out of KidZania in のべおか」を令和6年2月4日に開催した。本学からはこれまで参加していない学科の中からスポーツ健康福祉学科（鍼灸健康コース）が参加したが、来場者からは非常に好評であった。

また、「Out of KidZania in のべおか」に参加していない学科を中心に、11月23日に本学での「お仕事体験プログラム」を開催したが、来場者からは非常に好評であった。

九州保健福祉大学総合医療専門学校

Ⅰ．令和５年度教育方針

【学校全体の目標】

１．今まで同様、学修成果を目に見える形にし、学修者本位の教育を実践することで、看護師国家試験合格率及び入学定員充足率 100％を維持する。

２．広報戦略として組織的にパンフレットやホームページの再構成に取組み、学科の魅力ある教育活動の発信に努める。

３．退学者ゼロ及び県内就職率 60％以上を目指す。

４．新たな看護師養成カリキュラム（令和 4 年 4 月開始）に対応した教育の質向上を目指す。

Ⅱ．各事業の概要

１．教育関係

【今年度の目標】≪≫は第 3 期中期計画・目標に該当する項目番号

１．看護師国家試験は協力体制を整え全学年で対策を講じ合格率 100％を維持する。≪Ⅰ-2≫

２．本校の魅力や強みを発信し入学定員充足率 100％を維持する。≪Ⅱ≫

３．学生の就学困難な兆候を見逃さず対応し成績不振による退学者ゼロを目指す。≪Ⅰ-1,5≫

４．県内就職率 60％を維持する。≪Ⅴ≫

５．新カリキュラムと連動した講義、演習、実習を実践し、学生の知識・技術の向上を目指す。≪Ⅰ-3,4≫

【具体的な手立て】

１．看護師国家試験は協力体制を整え全学年で対策を講じ合格率 100％を維持する。

１）学生が段階的、主体的に単位が習得できるよう各学年運営の指導計画を立案し実践する。

２）教員各自が国家試験の出題傾向を踏まえた講義、実習指導を実践する。

３）国家試験対策や臨地実習において学生が思考し評価修正していく力を引き出し、知識の定着を図る。

４）教員間で情報共有を行い、学生の学力やモチベーションを見極め、時宜を得た対策を講じる。

【事業報告】

学年ごとに指導案を立案し、教員一人一人が国家試験を考慮した講義、実習指導を実践した。また、成績下位の学生についての個別国家試験対策の実施、国試対策に参加できない学生への保護者を含んだメンタル面でのサポート等を実施したが、2名が不合格であり合格率は96％であった。全国平均87.8％を上回ったものの、目標の100％合格は達成でき

なかった。

２．本校の魅力や強みを発信し入学定員充足率100％を維持する。

１）事務室と連携し、学校紹介に繋がる行事やイベントに積極的に参加し高校生や保護者、実習施設、高校に本校の特色や魅力をＰＲする。

２）地域の中で求められる人材を送り出すことで本校の社会的評価や信頼度を高め、入学希望者の増加に繋げていく。

【事業報告】

予定された学校見学会の実施、予約外の生徒及び保護者には 9 月の土曜日を中心に随時対応した。また、看護協会でのイベントや高校説明会にも参加し、入学定員の確保に繋がるよう、事務室と連携し積極的に PR を行ったが、定員充足率は 77％にとどまった。

３．学生の就学困難な兆候を見逃さず対応し成績不振による退学者ゼロを目指す。

１）教員間で学生の必要な情報交換をすることにより学生の状況を把握し学生の心身の変化を見逃さず対応し、必要時、保護者を交えて面談し対策を講じる。

２）看護に魅力を感じることができるよう、また看護師の資格取得に意欲が高まるように講義や実習を通し関わる。

３）入学後の学修の不安や成績不振を改善するため、入学前教育を継続し入学後の指導に活かす。

４）感染状況を考慮し、学習会やオリエンテーション等の学年を越え学生同士が交流できる機会を設け、学生生活のモチベーションの向上に繋げる。

【事業報告】

教員間で学生指導に必要な情報交換を行い、成績やメンタル面、生活面など、気になる学生には適宜声掛け、本人との面談、保護者への連絡および三者面談を実施した。学年を越えた学習会の実施を行い、学校生活や実習に対してのモチベーションが保てるように努力したが、本年度の退学者数は26名であった。成績不振そのものが理由の退学ではないが、看護の仕事内容への抵抗、対人関係、進路変更等理由は多岐にわたっている。

４．県内就職率 60％を維持する。

１）県内に就職した卒業生の状況や病院からの資料は優先的に掲示、伝達する。

２）県内に就職した卒業生が来校した際は、在校生に病院や看護の魅力を伝える機会を設ける。

３）臨地実習の機会を活用し、看護部長・病棟師長・指導者などから看護の魅力や就職に繋がる病院情報を得る機会を積極的に設ける。

４）宮崎県看護師等修学資金、県内の病院奨学金制度、宮崎大学医学部附属病院推薦採用枠などの活用について学生状況を見極めつつ勧めていく。

【事業報告】

県内の病院、施設の就職情報を掲示し、卒業生が来校した際は、在学生に就職状況

や看護師の魅力などについて話してもらう機会を設けた。宮崎県看護師等修学資金は2名、宮崎大学医学部附属病院への推薦枠に2名合格した。県内就職率は62%で目標を達成できた。

5．新カリキュラムと連動した講義、演習、実習を実践し学生の知識・技術の向上を目指す。

1）教育内容の精選・充実を図り、効果的に学ぶことができ看護の魅力を体感できるカリキュラムを実践する。

2）事務局と連携し新カリキュラムに対応した学内の学修環境を整える。

3）新カリキュラムと旧カリキュラムの各々で履修する学生が在学するため、学生の単位取得に不利益が生じないような体制を整える。

【事業報告】

３年生のみが旧カリキュラムで進行したが、１年生・２年生ともに滞りなくカリキュラムの運営ができた。環境面においても、２年生教室のモニター設置が行われ、支障なく講義ができていた。休学後の学生が、新カリキュラムの学生と講義を受けるため、不利益を被らないように単位履修のための追加講義を設定し実施した。

２．その他

【今年度の目標】　≪≫は第3期中期計画・目標に該当する項目番号

１．自己点検・評価を実施する。≪Ⅳ≫

２．適正な予算執行と学習環境の整備に努める。≪Ⅲ≫

【具体的な手だて】

１．自己点検・評価を実施する。

自己点検評価、及び学校関係者評価を実施し、ホームページ上で公表する。

【事業報告】

令和4年度自己点検書をＨＰにアップをした。令和4年度と令和5年度を兼ねて、自己点検書に基づく学校関係者評価を実施する。

２．適正な予算執行と学習環境の整備に努める。

・重要性、必要性の裏付けを伴った予算の執行を行う。

・省エネの啓発を頻繁に行う。

・学生の自主学習意欲に応えられるよう、校内の環境整備を行う。

【事業報告】

学校全体の予算執行は計画に沿って進めることができた。

令和５年度は大型事業として校舎の外壁改修工事を行った。

毎月の電気使用量を教職員会議で共有し、省エネ意識の向上を図った。

学習環境の整備については、機器の老朽化による故障対応を適宜行った。

学校名変更に伴う各種手続きを行った。（県庁に提出する書類は新年度）

順正学園設置校　国家資格合格率表　（令和5年度）

設置校	吉備国際大学														
学科	看護学科						理学療法学科			作業療法学科			公認心理師		
資　格	看護師			保健師			理学療法士			作業療法士			大学院心理学研究科		
区　分	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計
受験者数	33	7	40	18	1	19	41	12	53	7	3	10	5	－	5
合格者数	29	3	32	18	1	19	41	2	43	7	1	8	4	－	4
合 格 率	87.9%	42.9%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	16.7%	81.1%	100.0%	33.3%	80.0%	80.0%	－	80.0%
全国平均	93.2%	30.4%	87.8%	97.7%	58.3%	87.8%	95.3%	33.8%	89.3%	91.6%	33.9%	84.4%	－	－	76.2%

設置校	九州保健福祉大学																										
学科	通信教育部			社会福祉学部						臨床福祉学科			スポーツ健康福祉学科						薬学科				動物生命薬科学科		
資　格	社会福祉士			社会福祉士			精神保健福祉士			介護福祉士			はり師			きゆう師			薬剤師				愛玩動物看護師		
区　分	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒（6年制）	既卒（4年制）	合計	新卒	既卒	合計
受験者数	45	113	158	18	87	105	2	7	9	2	0	2	11	6	17	11	5	16	44	78	0	122	25	8	33
合格者数	30	52	82	14	19	33	2	1	3	2	0	2	9	1	10	9	1	10	39	33	0	72	21	6	27
合 格 率	66.7%	46.0%	51.9%	77.8%	21.8%	31.4%	100.0%	14.3%	33.3%	100.0%	#DIV/0!	100.0%	81.8%	16.7%	58.8%	81.8%	20.0%	62.5%	88.64%	42.31%	#DIV/0!	59.02%	84.0%	75.0%	81.8%
全国平均	76.8%	41.7%	57.4%	76.8%	41.7%	57.4%	82.5%	31.8%	66.3%	82.8%	17.9%	71.5%	85.8%	14.1%	69.3%	86.2%	13.0%	70.2%	83.71%	42.28%	20.00%	67.11%			68.6%
	※1	※2	※3	※1	※2	※3	※1	※2	※4																

設置校	九州保健福祉大学															九州保健福祉大学総合医療専門学校		
学科	作業療法学科			臨床心理学科			生命医科学科						臨床工学別科			看護学科		
資　格	作業療法士			言語聴覚士			臨床検査技師			臨床工学技士			臨床工学技士			看護師		
区　分	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計
受験者数	1	4	5	13	8	21	34	21	55	6	3	9	1	2	3	50	0	50
合格者数	0	0	0	10	2	12	31	4	35	5	1	6	1	1	2	48	0	48
合 格 率	0.0%	0.0%	0.0%	76.9%	25.0%	57.1%	91.2%	19.0%	63.6%	83.3%	33.3%	66.7%	100.0%	50.0%	66.7%	96.0%	#DIV/0!	96.0%
全国平均	91.6%	33.9%	84.4%	87.3%	32.8%	72.4%	88.0%	26.3%	76.3%	87.9%	16.4%	79.5%	87.9%	16.4%	79.5%	93.2%	30.4%	87.8%

注

※1：福祉系大学等の新卒合格率

※2：福祉系大学等の既卒合格率

※3：福祉系大学等の全体合格率（全体の合格率は58.1%）

※4：福祉系大学等の全体合格率（全体の合格率は70.4%）